

「子どもと子育てに関する市民意識調査」等 集計分析報告書

平成 29 年 3 月

佐世保市 子ども未来部 子ども政策課

目 次

調査の概要

- 1 調査の目的 … 1
- 2 調査手法と集計分析の方向性 … 2

回答者の属性整理

- 1 回答者の属性整理 … 3

調査1 子どもと子育てに関する市民意識調査

- 1 調査の目的 … 7
- 2 調査集計の結果 … 7
- 3 調査結果の個別分析 … 14

調査2 子育て世帯の生活に関する調査

- 1 調査の目的 … 15
- 2 調査集計の結果 … 15
- 3 調査結果の個別分析 … 25

調査3 子どもと子育てを取り巻く地域環境に関する調査

- 1 調査の目的 … 26
- 2 調査集計の結果 … 26
- 3 調査結果の個別分析 … 34

調査4 子育てと仕事の両立に関する調査

- 1 調査の目的 … 35
- 2 調査集計の結果 … 35
- 3 調査結果の個別分析 … 38

調査の概要

1 調査の目的

(1) 調査の実施目的

当該調査は、佐世保市における「子育て世帯の出生に関する意識」、「子どもや子育てに関する満足度」、「子どもと子育てを取り巻く環境」の相互関係の把握を目的として、市民意識、生活環境、地域環境、就労環境が子どもや子育て支援に与える影響について、次の4つの視点をもって分析するものとする。

- (a) 子育て世帯の出生に対する意識等について、佐世保市と全国の状況の差を比較
- (b) 子育て世帯の経済環境を軸として、子育て世帯の生活や意識の差を比較
- (c) 子育てのしやすさについて、子育てを取り巻く多様な地域環境の影響を比較
- (d) 子育て世帯の就労環境の違いが、子育て世帯の意識に与える影響等を比較

(2) 調査目的設定の背景

「子どもと子育てに関する市民意識調査」をはじめとする今回の調査の実施を企画する当初段階では、全国と比較して合計特殊出生率が高いことなどを根拠に、佐世保市の子どもと子育てに関する環境は充実していると判断した上で、市民にとって佐世保市が子育てしやすいと思える部分はどこにあるのかを把握することを目的とする予定であった。

しかしながら、「平成28年まちづくり市民意識アンケート調査」では、子育て支援施策に関する市民満足度が大幅に低下するなど、合計特殊出生率の高さは、必ずしも子育て支援に関する市民満足度を反映したものではないことが明らかになり、佐世保市の子どもと子育てに関する環境が充実しているという判断の妥当性が大きく揺らぐことになった。

以上から、佐世保市の子どもと子育てに関する環境は充実しているとする判断を一度保留しつつ、「子育て世帯の出生に関する意識」、「子どもや子育てに関する満足度」、「子どもと子育てを取り巻く環境」の相互の関係等を把握しながら、佐世保市の子どもと子育てに関する環境で充実している部分を分析するという方向性に企画内容を改めることとしたものである。

(3) 当該調査の集計分析に必要な視点

当該調査は、佐世保市の子どもと子育てを取り巻く環境に対する回答者の市民意識を徴するものであり、他の全国データやまちづくり市民意識アンケートのデータと調査水準を合わせるものである。一方この調査とは別に、子育て支援環境等に関する理想像に関する意見を徴することとしているが、これは他都市等の理想的な子育て環境と佐世保市の実態との相対比較に関する意見であるため、満足度等の類似の調査項目については分析結果が異なる可能性がある。

また、アンケート調査とは別に、実際に子育て中の保護者から直接的に意見を聞いているものもあり、特に産前産後ケアの必要性など、現在の生の声としての子育て支援ニーズなどは分析の方向性として視野に入れておく必要がある。

その他、少子化社会に関する様々な研究等の結果についても、当該調査を分析するにあたって、仮説的な視点として含めていく必要があると考えられる。

2 調査手法と集計分析の方向性

(1) 調査の制度設計にあたって

今回の調査においては、出生に関する意識や街としての子育てしやすさが、子育て支援の満足度低下にどのように影響しているか把握することを大きな目的の1つとしている。このため、全国規模の同様の調査との比較分析を行うことも想定し、一般財団法人1 more baby 応援団が実施した『夫婦の出産意識調査 2015』をベースとして、調査項目のほか、調査手法についてもある程度条件を揃えて制度設計を行った。なお、この点については、国立社会保障・人口問題研究所の『第15回出生動向基本調査（2015年）』の結果とも一定の比較が可能と判断した。

また、『夫婦の出産意識調査 2015』で不足する子育て世帯の家計等の生活環境による影響や夫婦の就労環境の違いによる影響を捕捉するために、独自の調査項目を追加することとし、手法をインターネット調査に揃えたことによる影響を小さくするために、調査票を4分割することで必要な調査項目への回答数を確保できるよう配慮した。

(2) 調査概要

① 調査対象

佐世保市在住の子育て中の保護者で年齢が20～49歳の方

② 調査別回答総数

「子どもと子育てに関する市民意識調査」 回答数 366 サンプル

・「2人目の壁」など出生等に関する意識に関する調査

「子育て世帯の生活に関する調査」 回答数 266 サンプル

・子育て世帯の家計を中心とした生活の実態や意識に関する調査

「子どもと子育てを取り巻く地域環境に関する調査」 回答数 227 サンプル

・子育てしやすい街か否かを中心とした子育て環境への意識に関する調査

「子育てと仕事の両立に関する調査」 回答数 216 サンプル

・就労環境が子育て意識に与える影響に関する調査

③ 調査手法

インターネット調査（市役所ホームページにおけるWebアンケート）

④ 調査期間

平成28年8月26日（金）～9月19日（月）

※参考：『夫婦の出産意識調査 2015』

調査対象：全国の女性20-39歳・男性20-49歳（男性は妻が39歳以下）で結婚14年以下の既婚者

有効回答数：2,961 サンプル

調査方法：インターネット調査

※参考：『第15回出生動向基本調査（2015年）』

調査対象：夫婦調査・全国における妻の年齢が50歳未満の夫婦

有効回答数：6,598 サンプル

調査方法：配票自計・密封回収方式

(3) 集計分析の方向性

今回の調査においては、調査項目数を考慮して調査票を4分割したため、相互のクロス集計はできないが、同一サイト上でのインターネット調査であり、全体的な傾向を捉える視点では、一連の調査として集計分析を行うこととする。

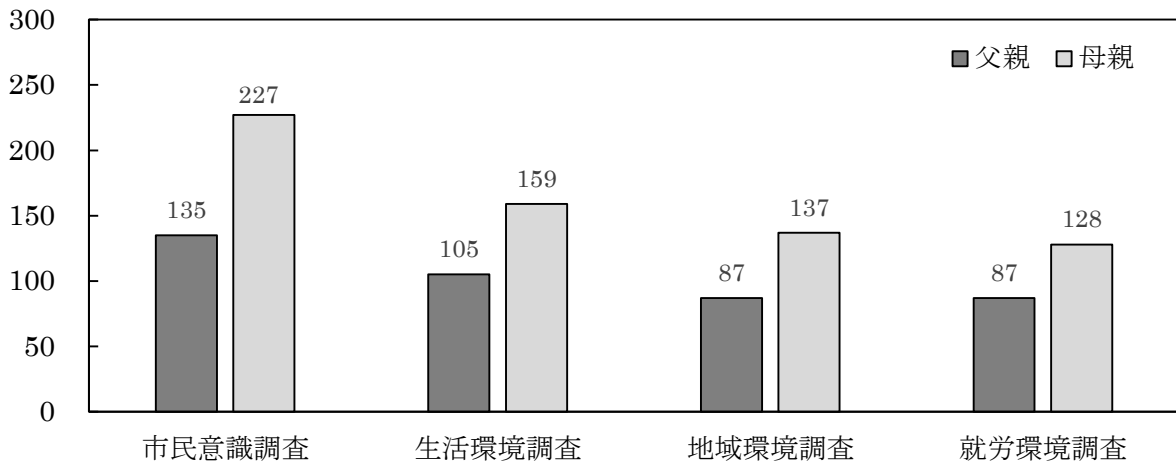
回答者の属性整理

1 回答者の属性整理

(1) 回答者の性別

市民意識調査等のそれぞれの性別の回答者数は、下記グラフのとおりであるが、調査全体の回答総数を性別で見ると、市民意識調査の男性 135 件（37.3%）、女性 227 件（62.7%）であった。

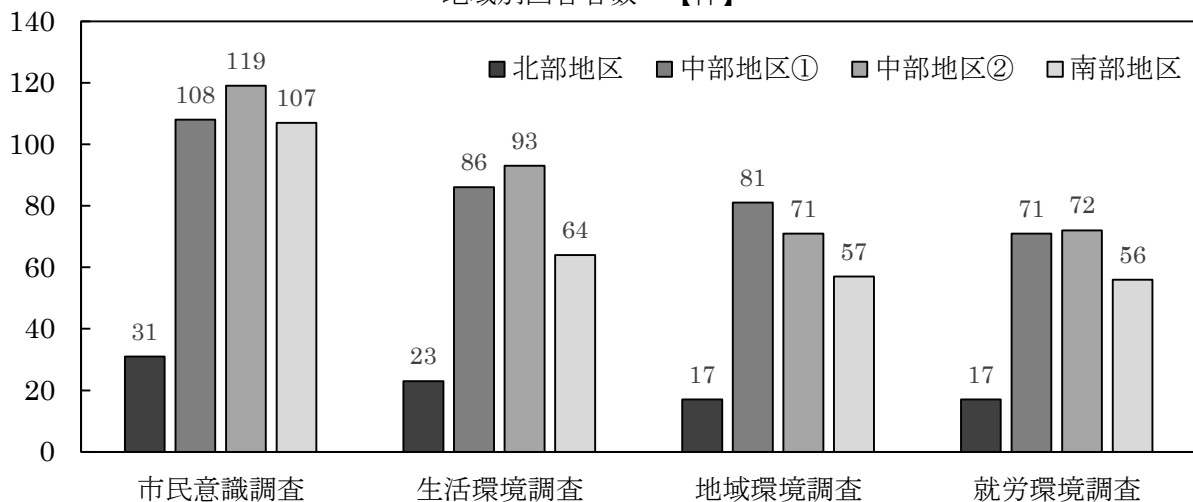
回答者の性別（不明等を除く） 【件】



(2) 回答者の居住地

市民意識調査等のそれぞれの回答者数を地域別に見ると、下記グラフのとおりであるが、調査全体の回答総数を居住地別で見ると、市民意識調査の北部地区 31 件（8.5%）、中部地区①108 件（29.6%）、中部地区②119 件（32.6%）、南部地区 107 件（29.3%）であった。

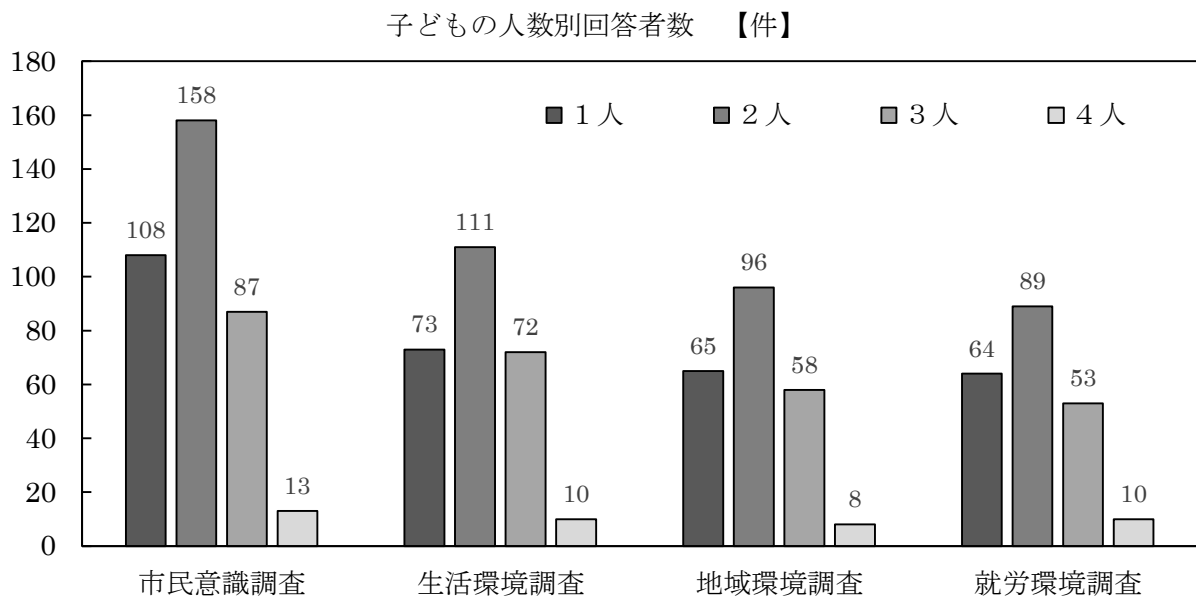
地域別回答者数 【件】



- ※ 北部地区 : 江迎・鹿町・吉井・世知原・小佐々・浅子・宇久 地区
- ※ 中部地区① : 野崎・愛宕・日野・相浦・黒島・中里・大野・柚木 地区
- ※ 中部地区② : 光海・清水・祇園・山澄・福石・崎辺 地区
- ※ 南部地区 : 日宇・早岐・広田・宮・三川内・東明 地区

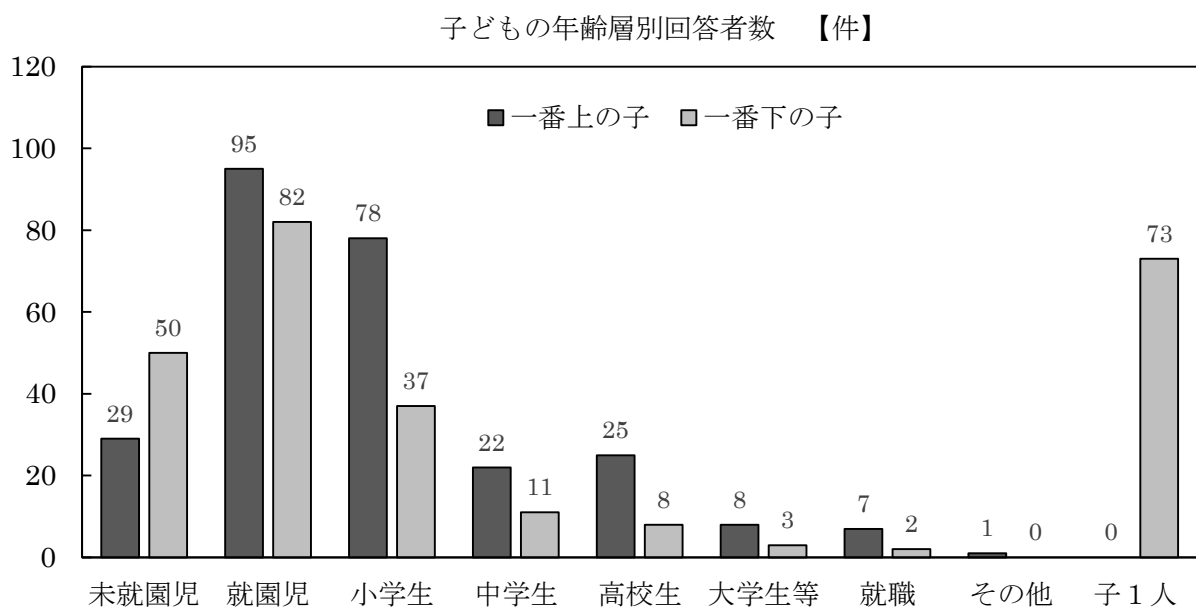
(3) 回答者の現在の子どもの人数

市民意識調査等のそれぞれの回答者数を現在の子どもの人数別に見ると、下記グラフのとおりであるが、調査全体の回答総数を子どもの人数別で見ると、市民意識調査の子ども1人108件(29.5%)、2人158件(43.2%)、3人87件(23.8%)、4人13件(3.5%)であった。



(4) 回答者の子どもの年齢層

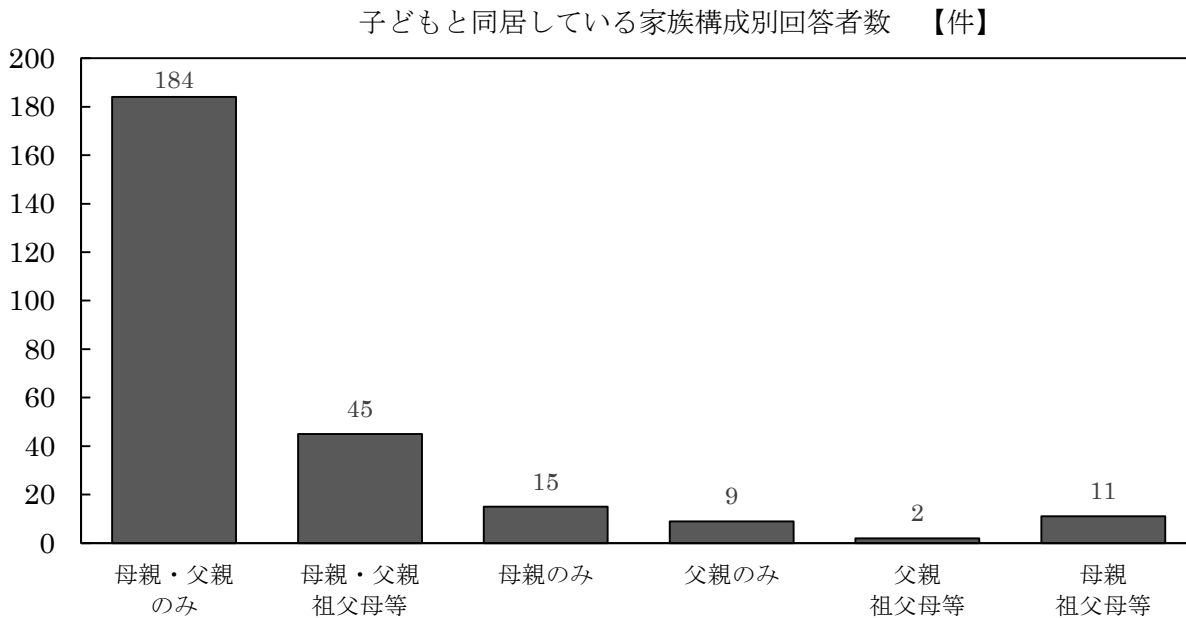
回答者の子どもの年齢層については、生活環境調査において、上の子どもと下の子どもの年齢層を調査している。全体の年齢層は下記グラフのとおりであるが、回答者の一番上の子どもの年齢層は、就園児が95件(35.8%)、小学生が78件(29.4%)であり、両者で全体の65.2%を占めている。下の子どもの年齢層を見ると、就園児が82件(30.8%)、未就園児が50件(18.8%)となっており、子どもは1人が73件(27.4%)であった。



※ 回答の重複を避けるため、子ども1人の場合は「一番下の子」の回答を「子ども1人」にデータ補正。

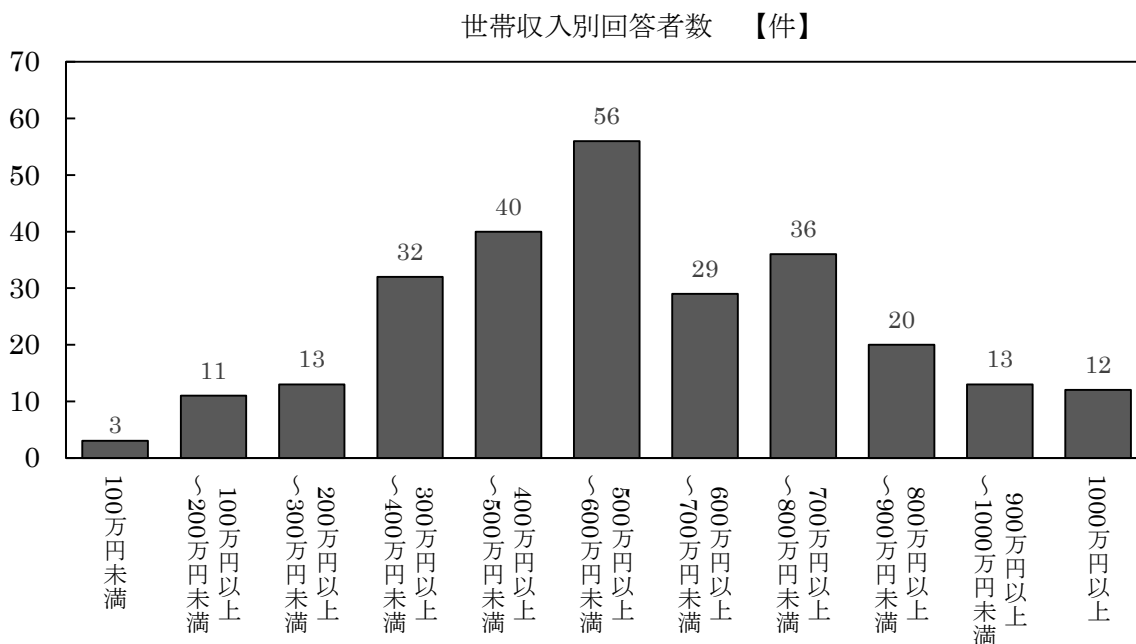
(5) 回答者の世帯構成

回答者の世帯構成については、生活環境調査において子どもと同居している家族等を調査している。世帯構成の状況は下記グラフのとおりであるが、子ども以外の同居している家族は、母親と父親のみが 184 件（69.2%）、母親と父親と祖父母等という家族構成が 45 件（16.9%）となっており、両者で全体の 86.1%を占めている。



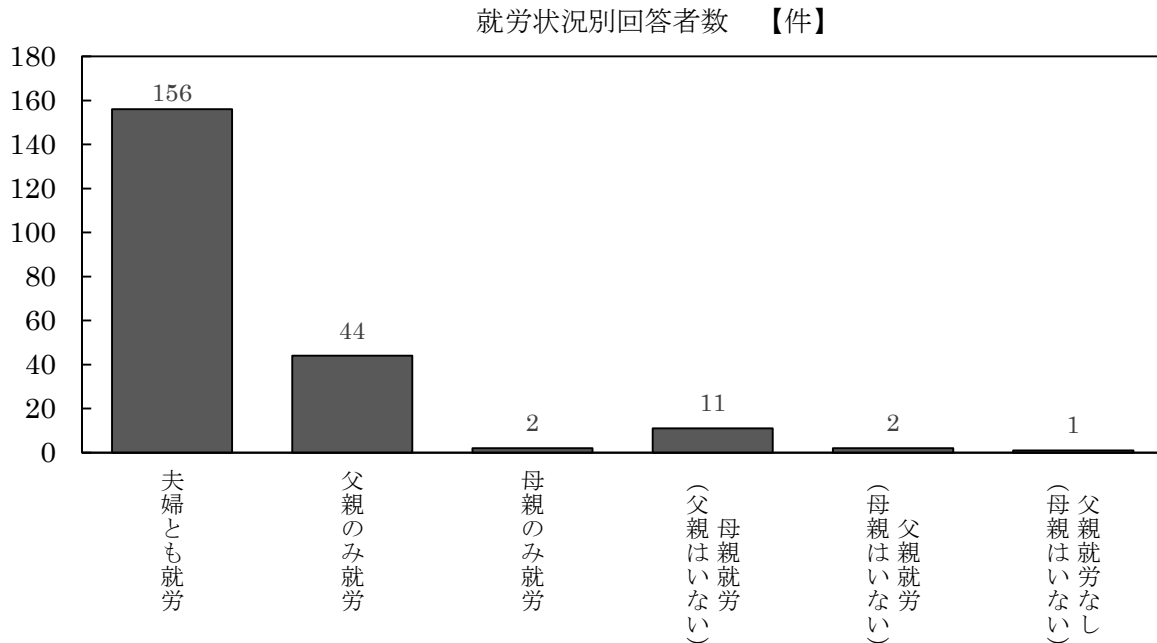
(6) 回答者の世帯収入

回答者の世帯収入については、生活環境調査において調査しており、状況は下記グラフのとおりである。最も多かった回答区分が 500 万円以上 600 万円未満の世帯で 56 件（21.1%）となっており、世帯年収 500 万円以上の世帯が 166 件（62.6%）となっていることから、当該調査には比較的世帯収入の多い世帯が回答していることがわかる。



(7) 回答者の就労状況

回答者の就労状況については、生活環境調査において調査しており、状況は下記グラフのとおりである。最も多かった回答区分が夫婦とも就労の世帯で156件（72.2%）となっており、いわゆる専業主婦世帯（父親のみ就労）は44件（20.4%）となっている。



(8) 回答者の属性に関する整理

回答者の属性を整理してみると、世帯構成としては両親と子どものみの核家族世帯が全体の約70%を占め、就労状況も夫婦共働きが全体の約70%となっている。子どもの人数は1人が約30%、2人が約40%、3人以上が約30%となっており、その子どもの多くが小学生以下となっている。世帯年収としては、500万円以上との回答が全体の60%以上となっている。

以上を踏まえると、今回の調査への回答者の傾向としては、いわゆる夫婦共働きの核家族世帯で、子どもや子育てにも関心が高く、家計を軸とした生活が安定した世帯からの回答が多かったと推測される。

※ 参考：一般財団法人 1 more baby 応援団が実施した『夫婦の出産意識調査 2015』の回答属性

回答者のうち、子どもなしが670件（22.6%）、子ども1人が1,065件（36.0%）、子ども2人以上が1,225件（41.4%）となっている。回答者の性別や就労状況については、一部の設問への回答状況2,220件の内訳で見ると、男性が約20%、女性が約80%となっており、女性専業主婦世帯は約53%で、女性フルタイム勤務の約13%を大きく上回っている。

調査 1 子どもと子育てに関する市民意識調査

1 調査の目的

(1) 調査の目的

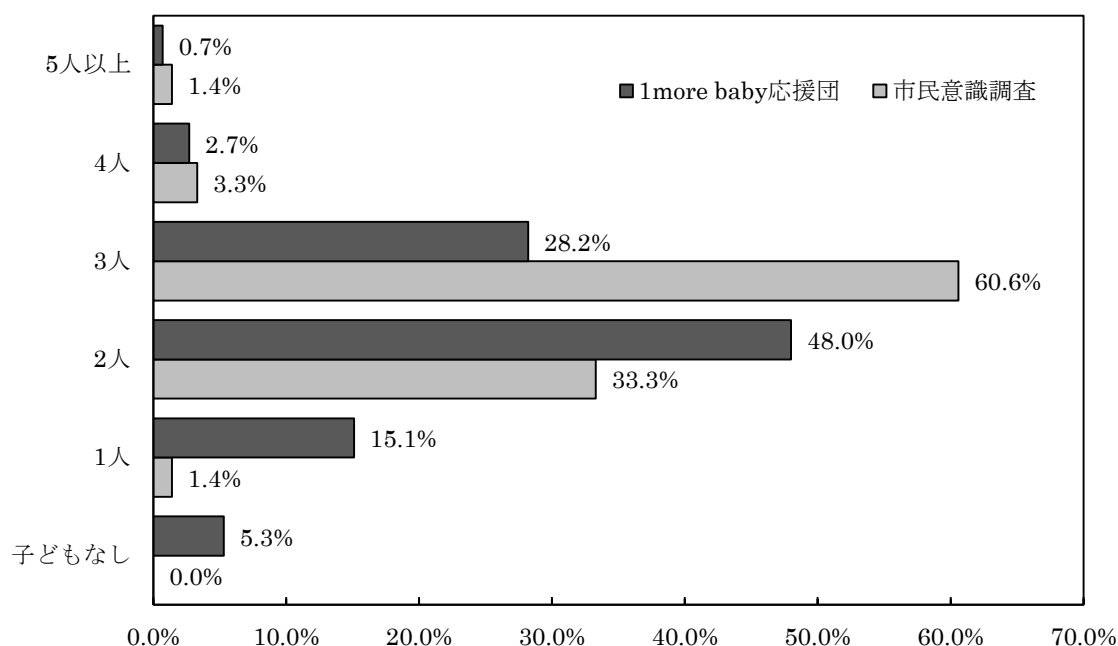
「子どもと子育てに関する市民意識調査」は、子育て世帯の出生に対する意識等について、佐世保市の状況を比較可能なデータと対比することで、合計特殊出生率を含めた出生動向の要因等について検証を試みるものである。また、子育て世帯の出生に関する意識が、子どもや子育てに対する幸福度・満足度にどのように影響を与えているかも同様に検証を試みるものである。

2 調査集計の結果

(1) 理想の子どもの数、実際に予定する子どもの数

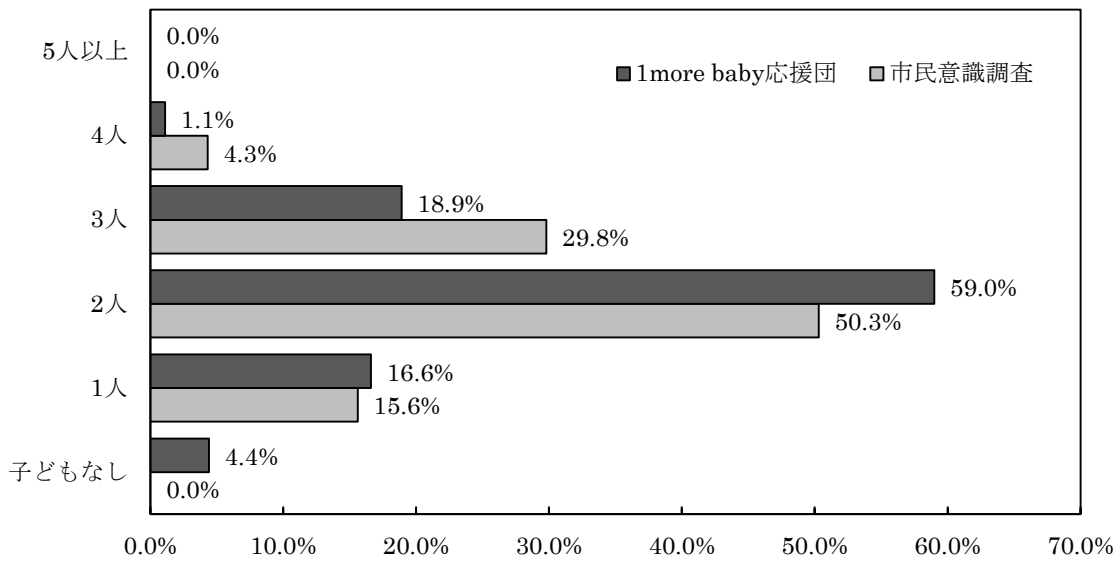
市民意識調査で理想の子どもの人数を聞いたところ、3人との回答が最も多く全体の60.6%であった。これに対して全国データである1 more baby 応援団の調査では、2人との回答が最も多く全体の48.0%となっている。理想の子どもの人数は、市民意識調査では2.70人に対し、1 more baby 応援団の調査では2.10人で、その差は0.6人となっている。

理想の子どもの人数



これに対して、実施に持つ予定の子どもの人数は、市民意識調査では2人との回答が最も多く全体の50.3%であった。これに対して全国データである1 more baby 応援団の調査も、2人との回答が最も多く全体の59.0%となっている。実際に持つ子どもの人数は、市民意識調査では2.23人に対し、1 more baby 応援団の調査では1.96人で、その差は0.27人となっている。

実際の予定の子どもの人数



※ 1 more baby 応援団の調査は「現実的な子どもの人数」

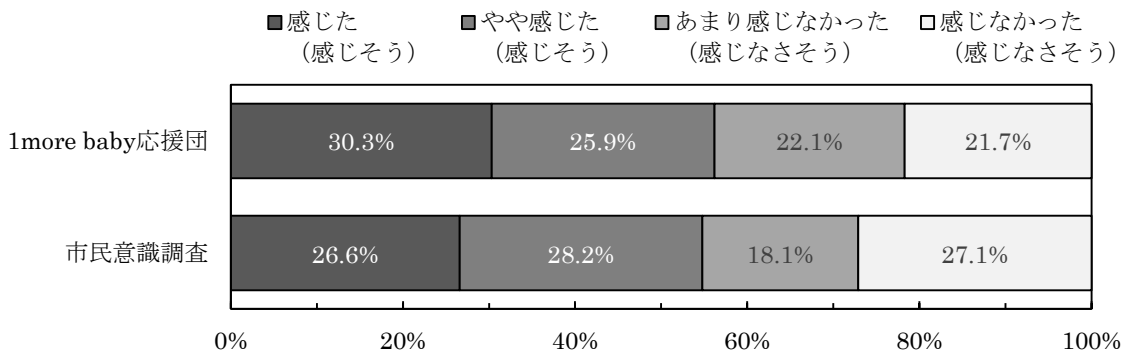
以上のように、理想の子どもの人数と実施に持つ予定の子どもの人数は、いずれも佐世保市の市民意識調査データが高くなっている。理想と実際の予定との差を見ると、市民意識調査では0.47人差であるのに対して、1 more baby 応援団の調査では0.14人差となっており、理想と実際の予定とのギャップも、佐世保市の方が大きくなっていることがわかる。

なお、国立社会保障・人口問題研究所が実施した第15回出生動向基本調査（2015年）によれば、理想の子どもの人数が2.32人、予定の子どもの人数が2.01人で、その差は0.31人となっている。

(2) 「2人目の壁」を感じたか（感じそうか）

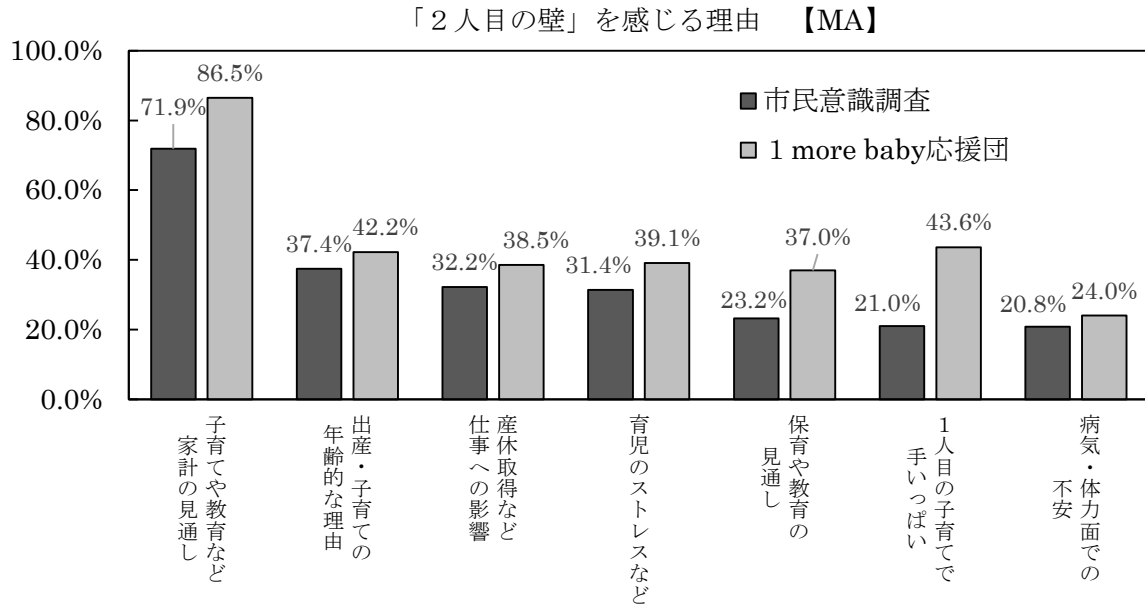
様々な理由により、2人目以上の子どもを持つことをためらってしまう「2人目の壁」について、「実際にためらいを感じたか（感じそうか）」という調査データで比較すると、市民意識調査では、「ためらいを感じた（感じそう）」「ややためらいを感じた（感じそう）」との回答が全体の54.8%であったのに対し、1 more baby 応援団の調査では56.2%で、その差は1.4ポイントしかなく、傾向として大きな差異は見られなかった。

「2人目の壁」を感じたか（感じそうか）



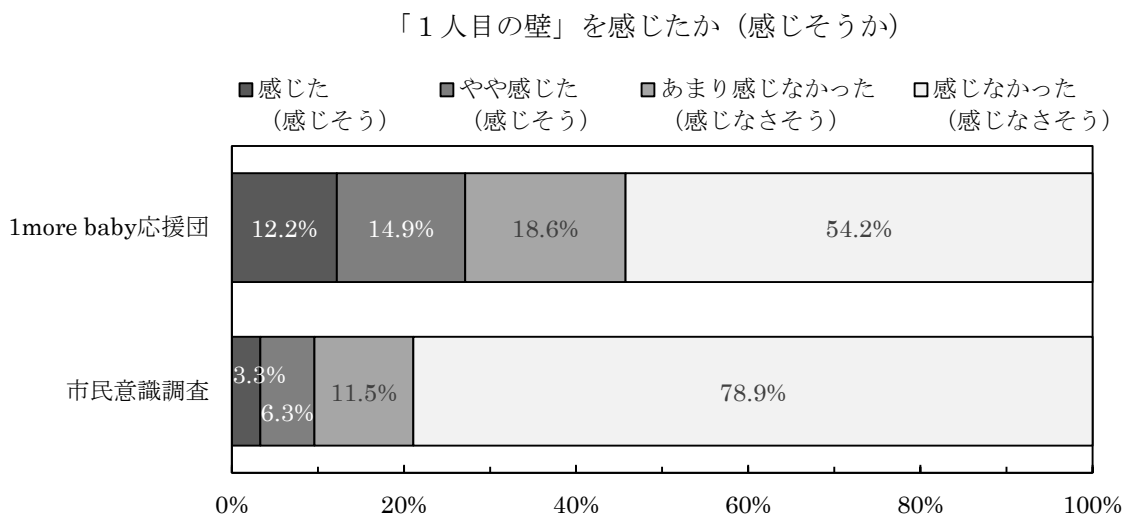
(3) 「2人目の壁」を感じる理由

「2人目の壁」を感じる理由について尋ねたところ、「子育てや教育など家計の見通し」との回答が最も多く全体の71.9%の回答であった。1 more baby 応援団の調査との比較では、全体的な傾向に大きな差異は見られないが、「1人目の子育てで手いっぱい」との回答は、市民意識調査が21.0%に対して、1 more baby 応援団の調査が43.6%となっており、佐世保市の状況が全国調査の半分以下になっている。



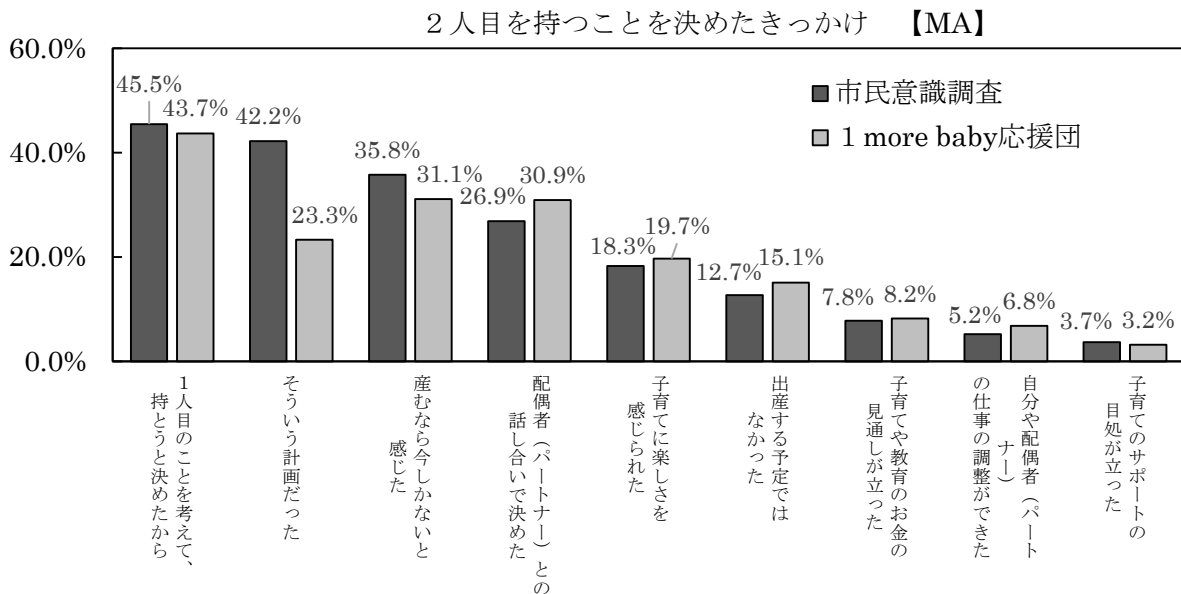
(4) 「1人目の壁」を感じたか（感じそうか）

同様に、1人目の子どもを持つことをためらってしまう「1人目の壁」について、「実際にためらいを感じたか（感じそうか）」という調査データで比較すると、市民意識調査では、「ためらいを感じた（感じそう）」「ややためらいを感じた（感じそう）」との回答が全体の9.6%であったのに対し、1 more baby 応援団の調査では27.1%で、その差17.5ポイントと大きな差が見られた。



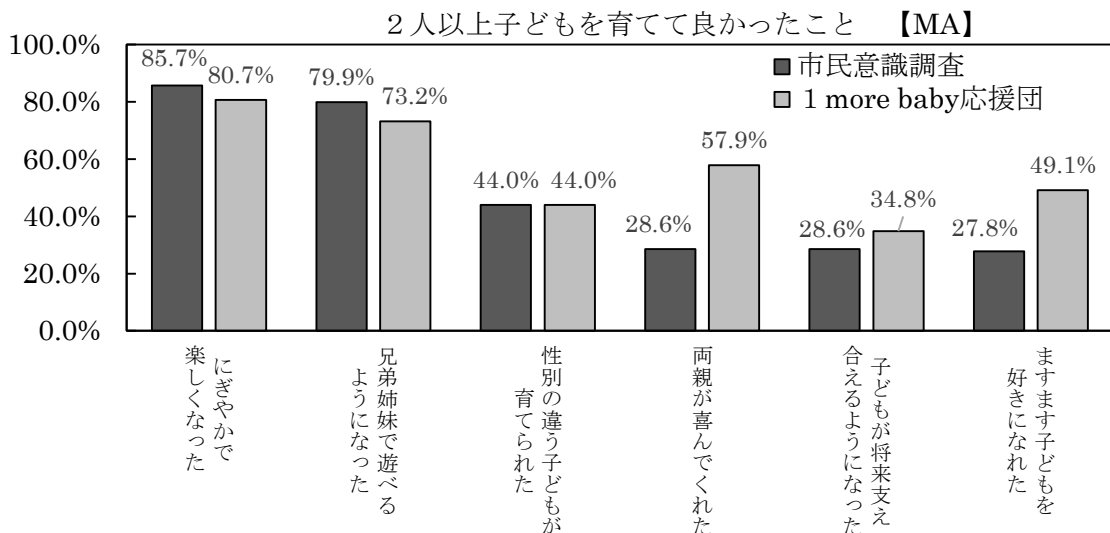
(5) 2人目を持つことを決めたきっかけ

2人以上のお子さんをお持ちの方に、2人目の子どもを持つことをきめたきっかけについて尋ねたところ、市民意識調査と1 more baby 応援団の調査ともに「1人目のことを考えて持とうと決めた」との回答が最も多く、それぞれ40%以上の回答となった。一方、市民意識調査では「そういう計画だった」という回答が2番目に多く、同様に40%以上の回答となっているのに対し、1 more baby 応援団の調査では「産むなら今しかないと感じた」との回答が31.1%で2番目に高く、その傾向にわずかに差が見られた。



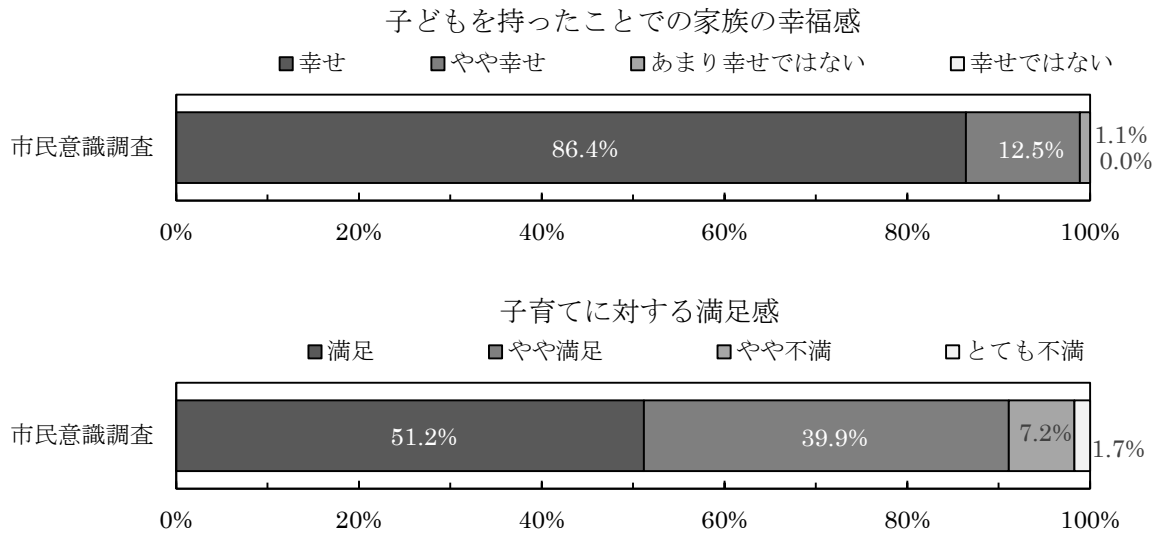
(6) 2人以上子どもを育てて良かったこと

2人以上のお子さんをお持ちの方に、2人以上の子どもを育てて良かったことについて尋ねたところ、市民意識調査と1 more baby 応援団の調査ともに「にぎやかで楽しくなった」との回答が最も多く、それぞれ80%以上の回答となった。複数選択回答の中で、全体的な傾向に大きな差異は見られないものの、1 more baby 応援団の調査では「両親が喜んでくれた」との回答が57.9%となっており、市民意識調査(28.6%)との間に差が見られた。

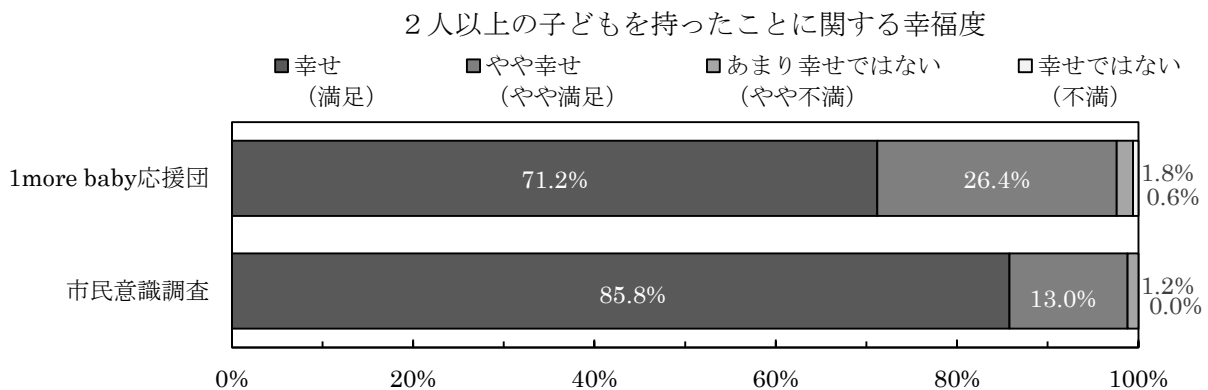


(7) 子どもを持ったことでの家族の幸福感、子育てに対する満足感

子どもを持ったことでの家族の幸福感について、市民意識調査では、「幸せを感じている」「やや幸せを感じている」をあわせた回答が98.9%となり、100%に近い方が幸せを感じているとの回答をされている。一方、子育てをしていることに対する満足度は、「満足している」「やや満足している」をあわせた回答が91.2%となっている。



1 more baby 応援団の調査では、2人以上の子どもを持ったことに関する幸福度に関して調査が行われているため、市民意識調査においても同様の集計を行ったところ、いずれの調査でも「幸せ」「やや幸せ」との回答が90%を大きく上回っている。



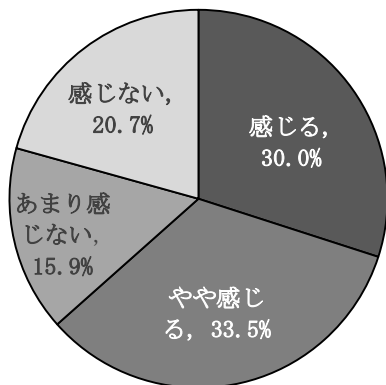
※ 1 more baby 応援団の調査は「幸福感の観点から満足しているか」という質問

(8) 「父親」と「母親」の子どもと子育てに対する意識の差

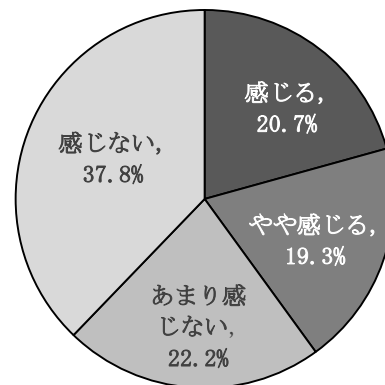
市民意識調査の様々な設問について、回答者が「母親」の場合と「父親」の場合に分けて集計すると、「母親」と「父親」の間に意識の差があることが分かった。

まず、「2人目の壁を感じるか」という設問への回答を回答者別（母親・父親）に見ると、「母親」の63.5%が「2人目の壁」を感じているのに対して、「父親」は40.0%にとどまっており、夫婦の間に大きな差があることがわかった。

母親の場合 (n=227)



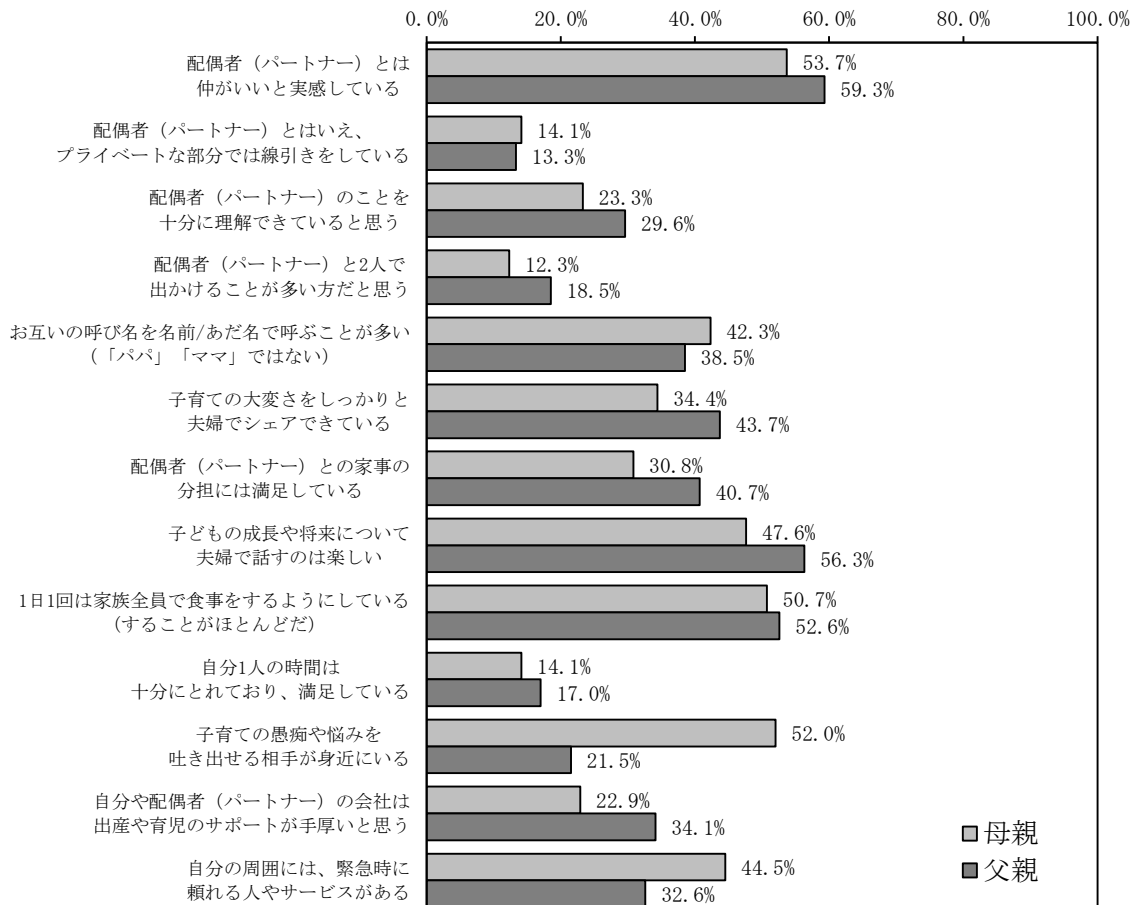
父親の場合 (n=135)



市民意識調査の中で、子どもと子育てに対する意識に関する内容として、「子育てに関して当てはまること」について尋ねたところ、この結果を回答者が「母親」の場合と「父親」の場合に分けて集計すると、「母親」と「父親」の間に意識の差があることが分かった。

「子育てに関して当てはまること」のうち、「子育ての大変さをしっかりと夫婦でシェアできている」という設問と「配偶者（パートナー）との家事の分担には満足している」という設問については、いずれも10ポイント程度、「母親」の回答の割合が低くなっている。逆に、「子育ての愚痴や悩みを吐き出せる相手が身近にいる」という設問については、「母親」の回答割合が52.0%と非常に高くなっており、「父親」の回答割合より30.5ポイントも高くなっている。

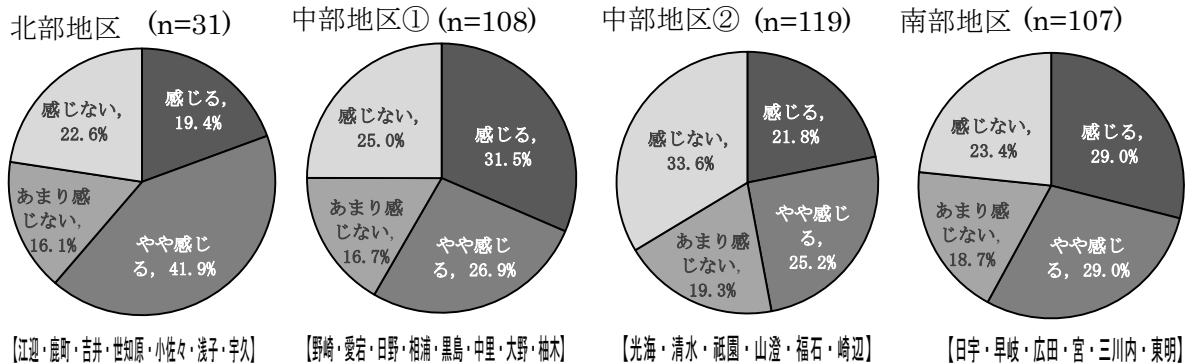
子育てに関して当てはまること 【MA】



(9) 子どもと子育てに関する地域差

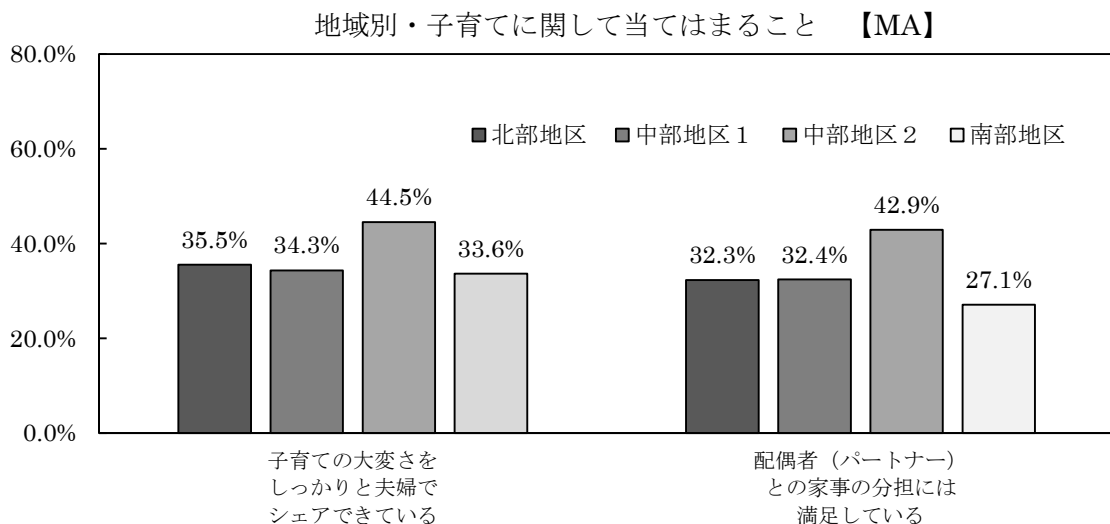
市民意識調査の中で、「2人目の壁」を感じる割合を地域別に見ると、わずかではあるが傾向に差が見られることがわかる。北部地区では、「感じる」との回答は19.4%と最も割合が小さいものの、「やや感じる」までを加えた「2人目の壁」を感じる割合は、最も割合が高くなっている。また中部地区②においては、「2人目の壁」を感じる割合が47.0%と50%を下回っている。

地域別・「2人目の壁」を感じたか（感じそうか）



以上のように、「2人目の壁」を感じる割合が中部地区②だけ50%を下回ったため、他の調査項目について地域差を見たところ、次のグラフのとおり、「子育ての大変さをしっかりと夫婦でシェアできている」あるいは「配偶者（パートナー）との家事の分担には満足している」との回答が、他の地区と比較して10ポイントほど高い結果となっていた。

この結果を、中部地区②の地域的な特性と断定することは難しいが、夫婦間での家事や子育てに関する分担意識と、「2人目の壁」に関する意識との間には、少なくともある程度の関係性があることが窺われる。



3 集計結果の個別分析

(1) 集計結果の個別分析のまとめ

市民意識調査の結果で全国の状況と複数のデータで比較できるものとして、「理想の子どもの数」と「実際に予定する子どもの数」の比較を行った。

これを見ると、佐世保市の市民意識調査では、理想の子どもの人数は2.70人に対し、実際に持つ子どもの人数2.23人で、理想と現実の差は0.47人であったが、1 more baby 応援団の調査では理想が2.10人で実際の予定が1.96人であり、その差は0.14人であった。さらに、出生動向基本調査では、理想が2.32人で実際の予定が2.01人で、差は0.31人であった。

以上のとおり、理想と現実のいずれも佐世保市のデータが両調査の全国データを上回っており、これが佐世保市の合計特殊出生率の高さとして現れていると推測できる。しかしながら、理想と現実の差（ギャップ）も全国データと比較して大きいことから、全国と比較して佐世保市には多くの子どもを欲しいと思っている市民が多いにも関わらず、それを実現するための環境は厳しい状況にあるということも推測できる。

次に、子どもを持つことに対する意識である「2人目の壁」を感じるかという点については、実際に子どもを持つ方が「2人目の壁」を感じるか（感じたか）では、佐世保市と全国調査の結果に差がなく、その理由についても大きな違いは見られなかった。見られる違いとしては、「2人目の壁」を感じる理由として「1人目の子育てで手いっぱい」と回答した割合で、佐世保市の21.0%に対して1 more baby 応援団の調査が43.6%であり、その差が大きかった。また、2人目のこどもを持つきっかけとして、「そういう計画だった」と回答した割合も、佐世保市の42.2%に対して1 more baby 応援団の調査が23.3%であり、その差が大きかった。

この違いは、「1人目の壁」を感じるかどうかという設問にも同様の傾向が現れており、佐世保市の9.6%に対し、1 more baby 応援団の調査では27.1%と大きな差として現れている。

以上のとおり、2人目よりも1人目の子どもの妊娠・出産・子育てへの影響が、佐世保市の場合全国よりも小さく、これが、佐世保市の合計特殊出生率の高さに表れていると推測できる。

なお、これらの傾向に関連したものとして、2人以上子どもを育てて良かったことに関する設問に対して「両親が喜んでくれた」と回答した割合が、佐世保市の28.6%に対して1 more baby 応援団の調査の結果では57.9%となっており、子どもを持つ意識に関する主体的感覚にも差があることが分かった。

佐世保市の状況について、地域的な特性の有無について検証してみたところ、「2人目の壁」を感じるか（感じたか）という設問では、中部地区②（光海・清水・祇園・山澄・福石・崎辺地区）のみ感じる割合が50%を下回っている。今回の市民意識調査では、この地域の特性と回答の因果関係までは特定することはできていないが、「子育ての大変さをしっかりと夫婦でシェアできている」あるいは「配偶者（パートナー）との家事の分担には満足している」と回答した割合が、中部地区②では他の地区を10ポイント程度上回っており、家事や子育てを夫婦できちんと分担できていることと「2人目の壁」に関する意識には相関関係があるものと推測できる。

調査 2 子育て世帯の生活に関する調査

1 調査の目的

(1) 調査の目的

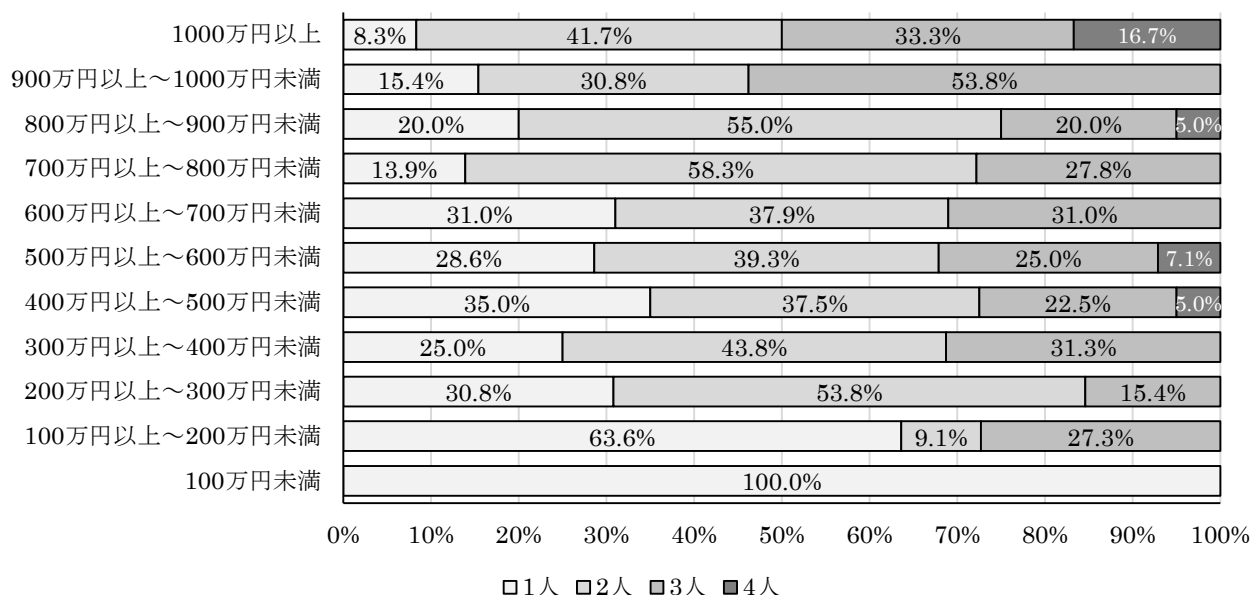
「子育て世帯の生活に関する調査」は、子育て世帯の家計の状況が子どもの生活や子育てに与えている影響、あるいは、祖父母からの多様な援助が子どもの生活や子育てに与えている影響について検証を試みるものである。特に、当該調査については比較的世帯収入の多い世帯の回答割合が高いことから、経済的支援ニーズについては、世帯収入と子どもにかかる費用負担の関係性についても可能な限り検証を試みることにする。

2 調査集計の結果

(1) 世帯収入別「子どもの人数」

回答者の属性整理の項目で整理したとおり、当該調査の「子どもの人数」に関する回答で、最も多いのが「2人」であり、次いで「1人」と「3人」との回答がほぼ同数であった。これを世帯収入別にみると、子ども「1人」の割合は世帯年収が「600万円以上～700万円未満」の31.0%に対して、「700万円以上～800万円未満」では13.9%となっており、この調査の結果においては世帯年収700万円以上の世帯で子ども「2人」の割合が80%を超える結果となっている。

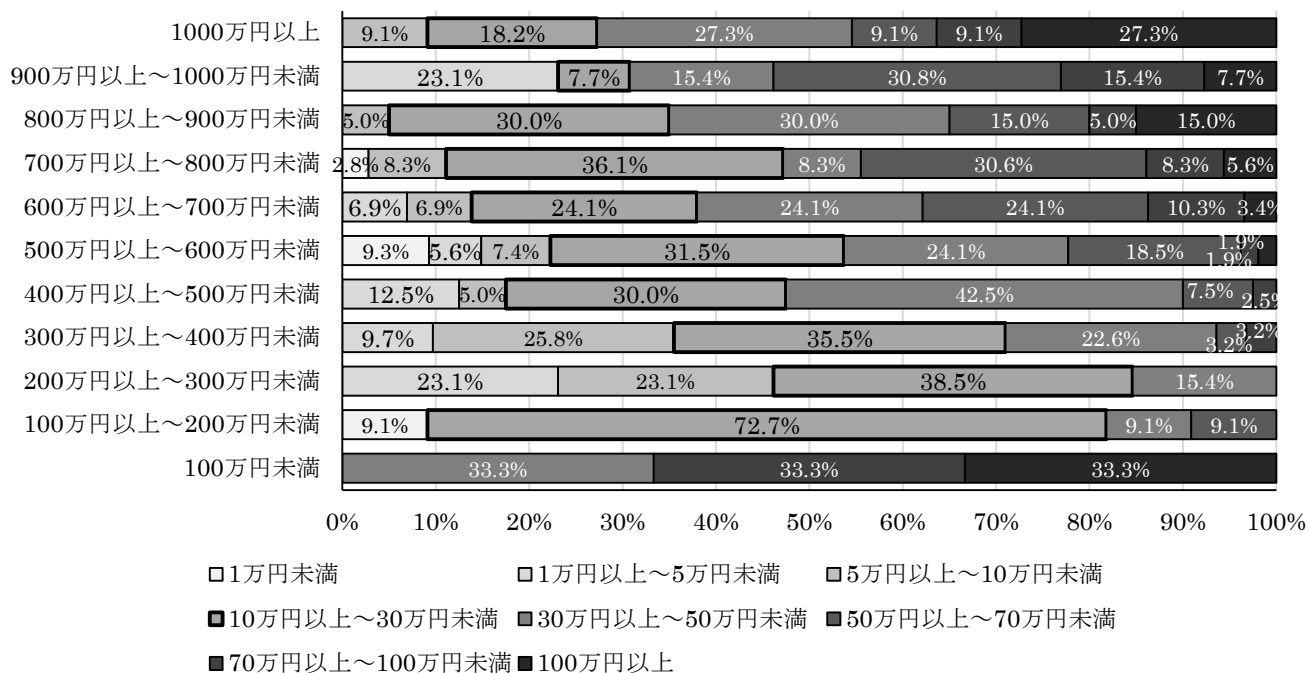
世帯収入別・子どもの人数 (n=265)



(2) 世帯収入別「上の子の子育てにかかる費用（年額）」

世帯収入別に「上の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が10万円以上30万円未満）のとおり、多少の誤差はあるものの、概ね世帯年収が多いほど子育てにかかる費用も多いことがわかる。特に、上の子の子育てに100万円以上かかると回答した方は、回答の整合性を図る必要のある世帯年収100万円未満の世帯を除けば、世帯年収が500万円以上の世帯に限られている。

世帯収入別・上の子の子育てにかかる費用 (n=261)

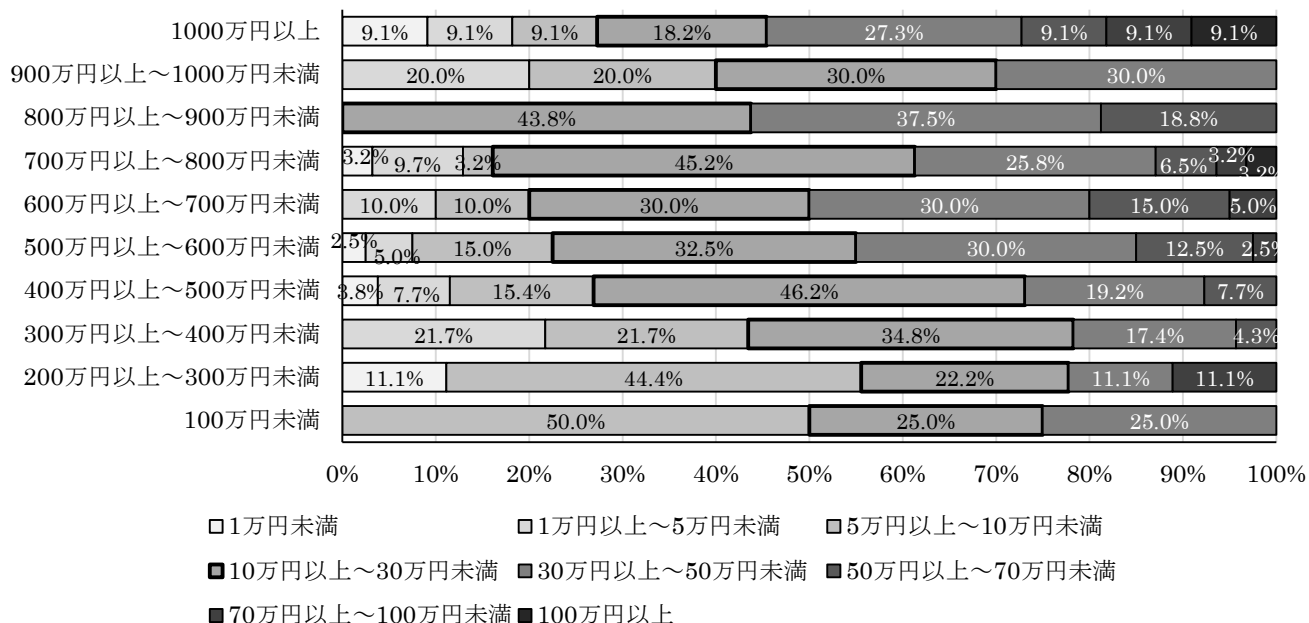


(3) 世帯収入別「下の子の子育てにかかる費用（年額）」

世帯収入別に「下の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が10万円以上30万円未満）のとおり、多少の誤差はあるものの、「上の子の子育てにかかる費用（年額）」と同様に、概ね世帯年収が多いほど子育てにかかる費用も多いことがわかる。特に、下の子の子育てに100万円以上かかるとの回答は、回答母数が少ないものの世帯年収が700万円以上の世帯に限られている。

世帯収入別・下の子の子育てにかかる費用 (n=190)

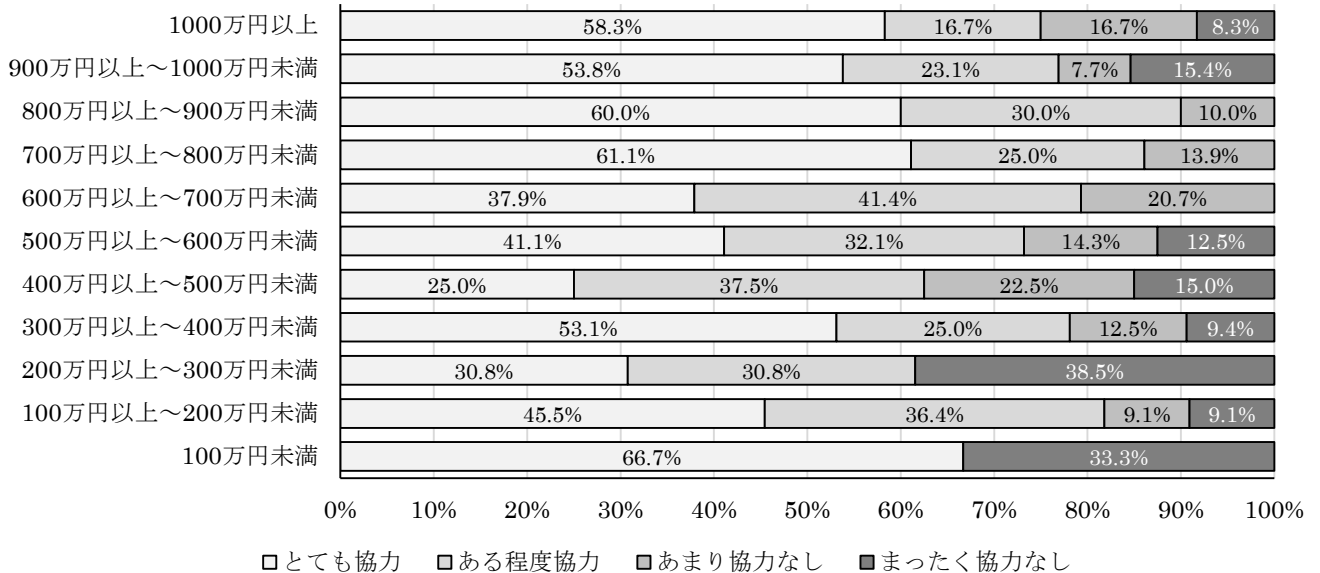
※子どもが1人の場合は「上の子」に含む



(4) 世帯収入別「祖父母の子育てへの協力（費用以外の面）」

世帯収入別に「祖父母の子育てへの協力（費用以外の面）」を見ると、次のグラフのとおりであり、比較的世帯収入が少ない世帯のほうが、祖父母の子育てへの協力も少ないような傾向が窺われるが、相互に相関的な関係性は見られなかった。

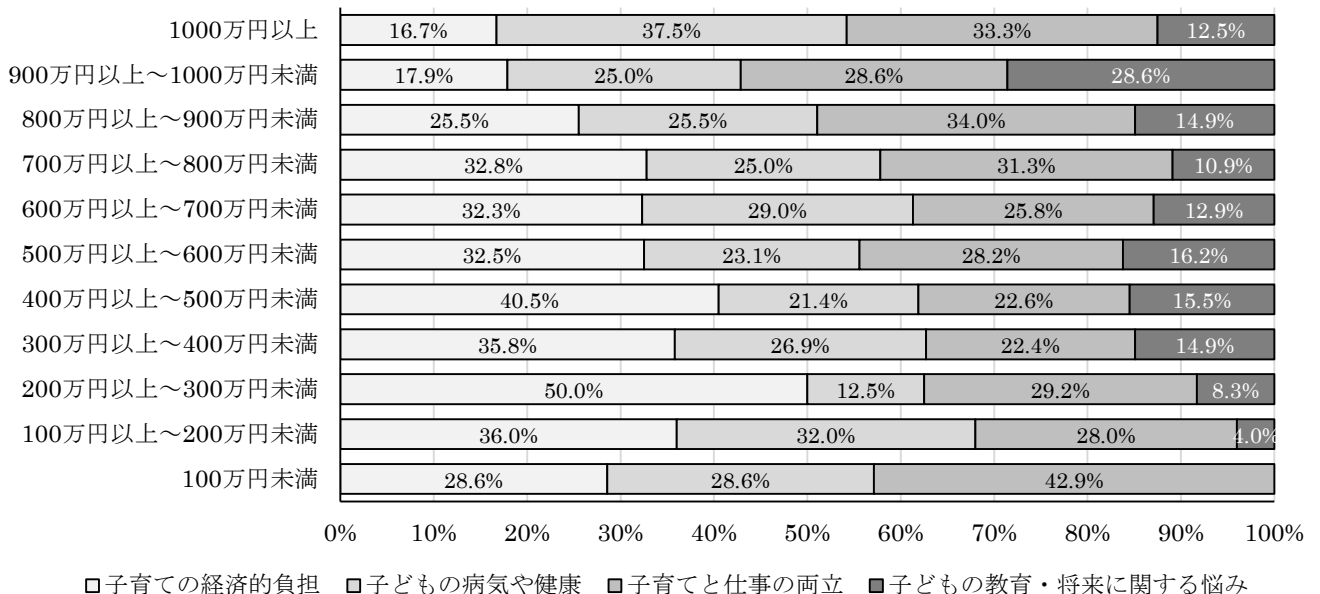
世帯収入別・祖父母の子育てへの協力（費用以外の面） (n=265)



(5) 世帯収入別「子育てで大変だと感じること（回答上位4項目）」

「子育てで大変だと感じること」を世帯収入との関係を踏まえた4項目に絞ってその構成比を世帯収入別に見てみると、次のグラフのとおりであった。この調査では、多少誤差はあるものの、「子育ての経済的負担」と回答した割合は世帯収入が少ないほど高い傾向にあり、「子どもの教育・将来の悩み」は世帯収入が多いほど回答の割合も高い傾向にあることがわかる。

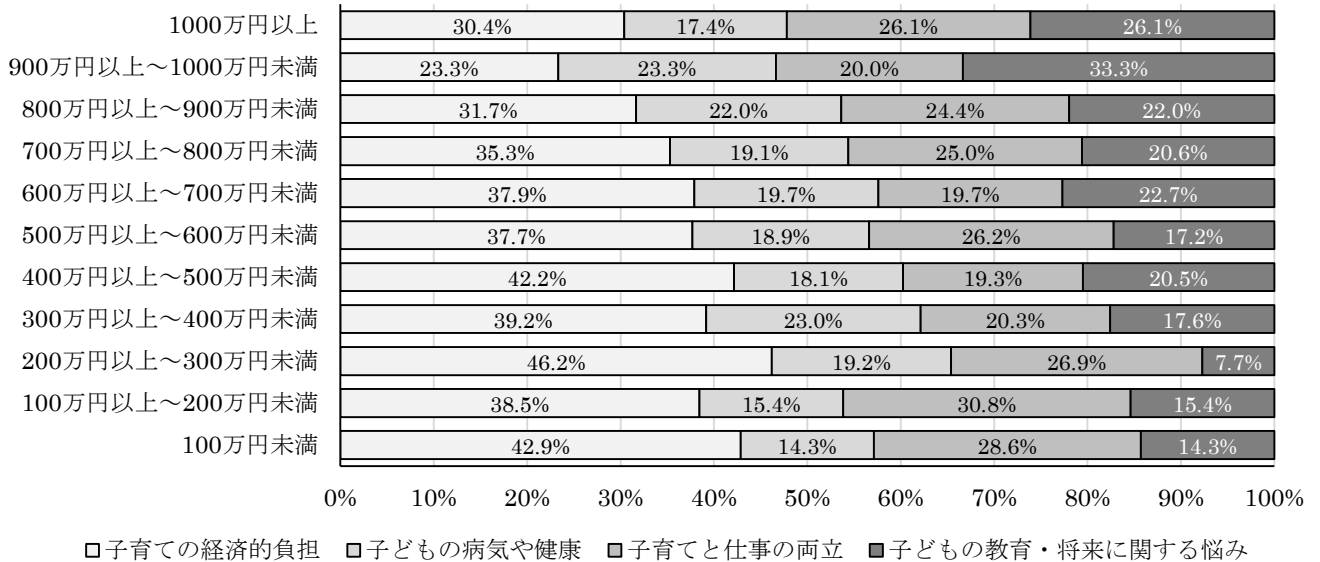
世帯収入別・子育てで大変だと感じること【MA】



(6) 世帯収入別「子育てでこれから心配なこと（回答上位4項目）」

「子育てでこれから心配なこと」を回答数の多かった上位4項目に絞ってその構成比を世帯収入別に見てみると、次のグラフのとおりであった。この調査でも、多少誤差はあるものの、「子育ての経済的負担」と回答した割合は世帯収入が少ないほど高い傾向にあり、「子どもの教育・将来の悩み」は世帯収入が多いほど回答の割合も高い傾向にあることがわかる。

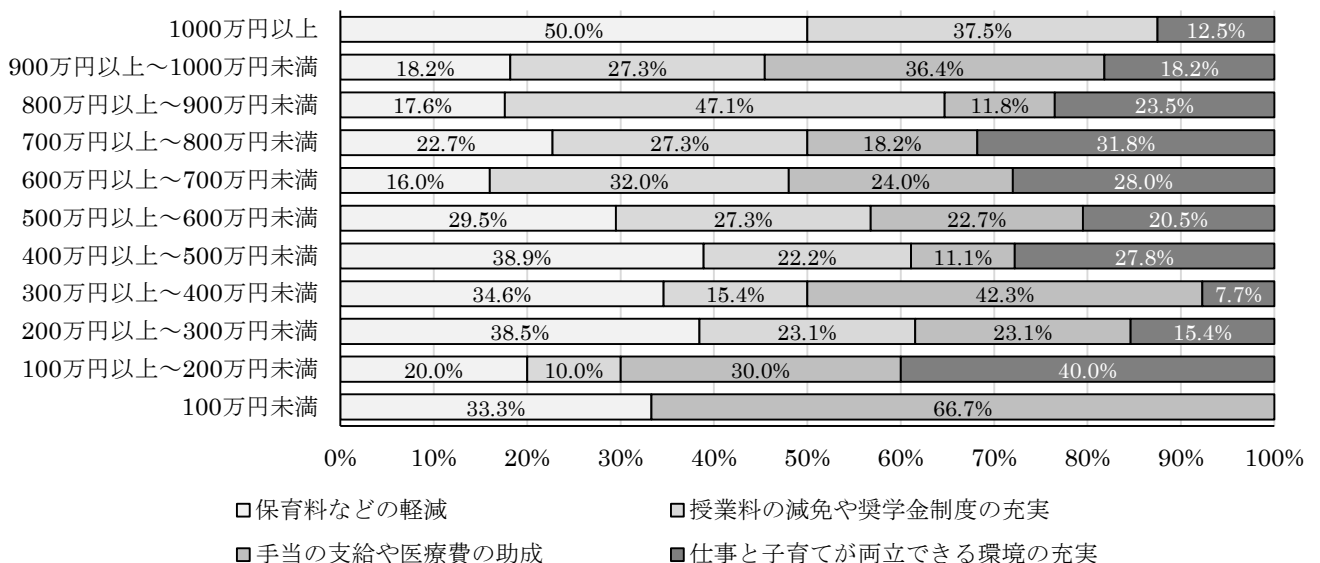
世帯収入別・子育てでこれから心配なこと【MA】



(7) 世帯収入別「今一番求めている子育て支援（回答上位4項目）」

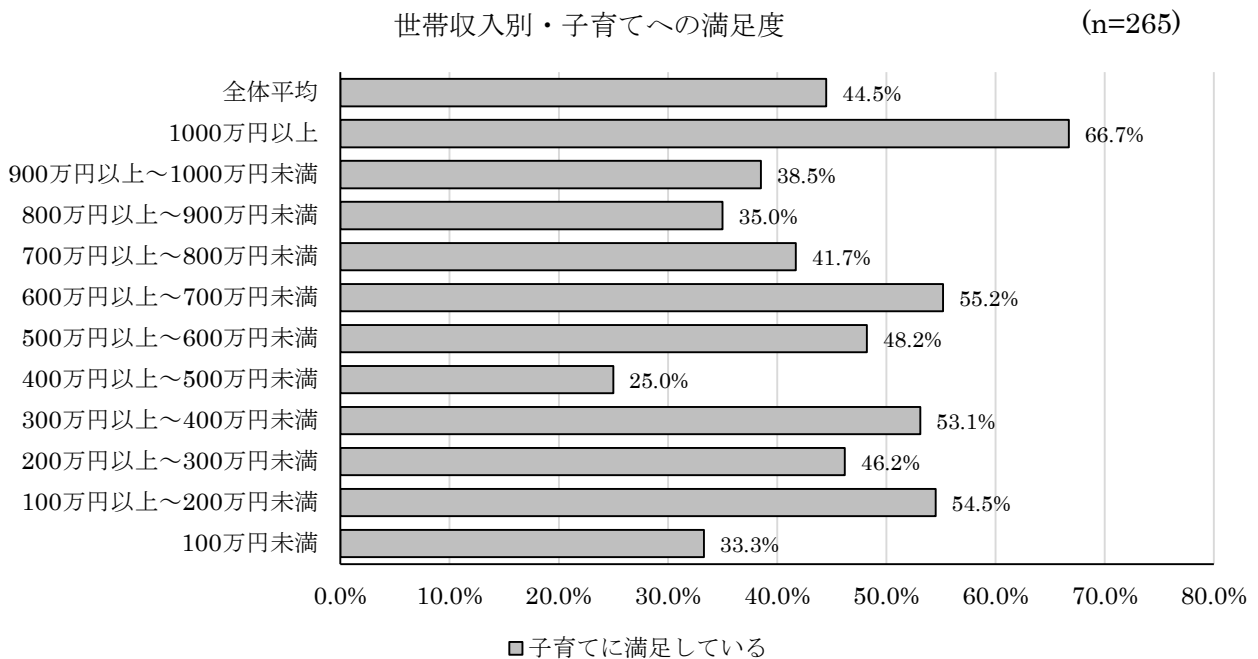
「今一番求めている子育て支援」を回答数の多かった上位4項目に絞ってその構成比を世帯収入別に見てみると、次のグラフのとおりであった。回答母数の関係もあり誤差があると思われるが、「保育料などの軽減」と回答した割合は世帯収入が少ないほど高い傾向にあり、「授業料の減免や奨学金制度の充実」は世帯収入が多いほど回答の割合も高い傾向にあると思われる。

世帯収入別・今一番求めている子育て支援 (n=215)



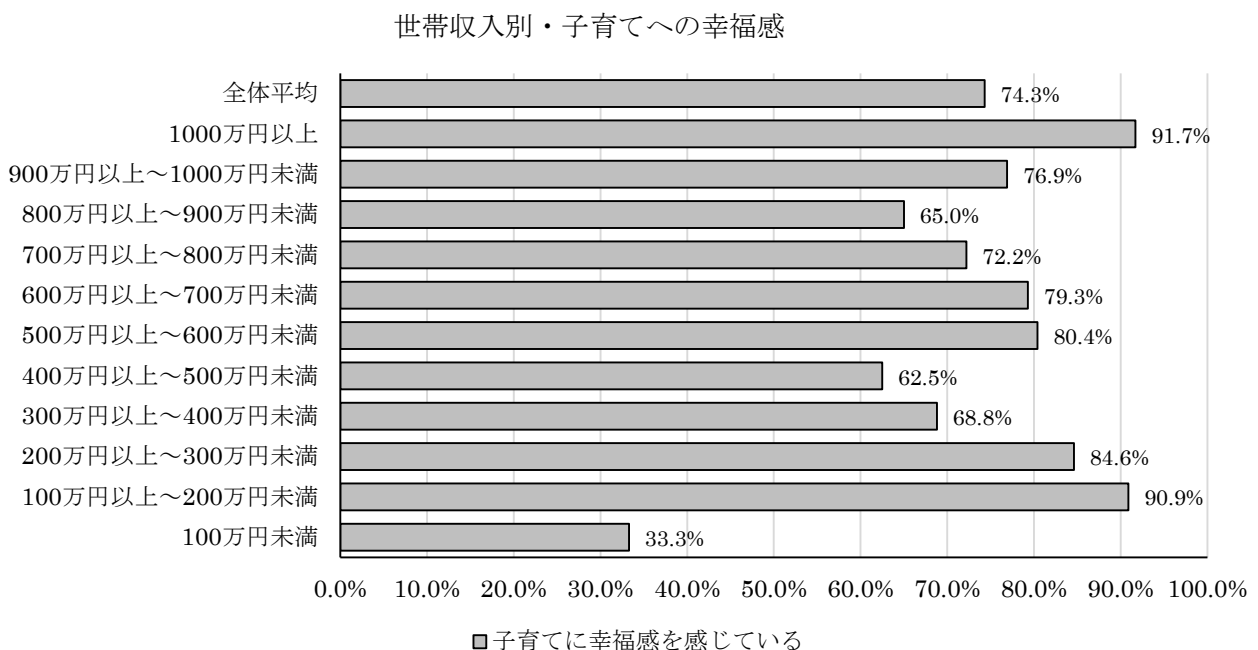
(8) 世帯収入別「子育てへの満足度」

「子育てに満足している」と回答した割合を世帯収入別に見てみると、次のグラフのとおりであった。回答母数の影響もあると思われるが、それを含めて見ても、世帯年収が高いことが必ずしも子育てへの満足度を高めることにつながっていないことがわかる。



(9) 世帯収入別「子育てへの幸福感」

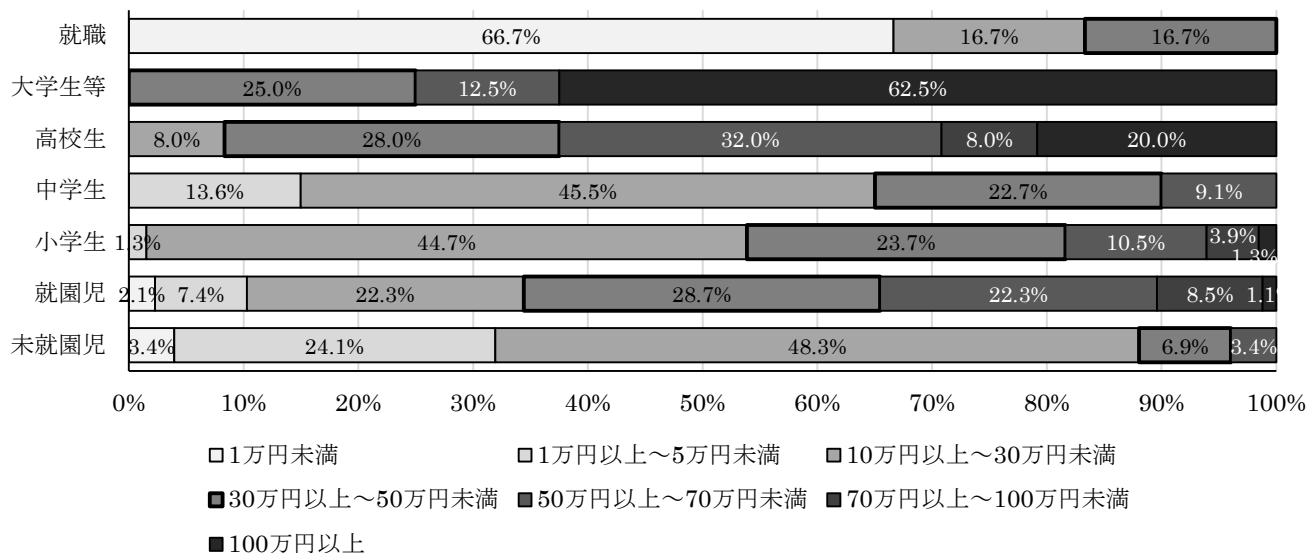
「子育てに幸福感を感じている」と回答した割合を世帯収入別に見てみると、次のグラフのとおりであった。回答母数の影響もあると思われるが、それを含めて見ても、「子育てへの満足感」と同様に世帯年収が高いことが必ずしも子育てへの幸福感を高めることにつながっていないことがわかる。



(10) 上の子の状況別「上の子の子育てにかかる費用（年額）」

上の子の状況別に「上の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が30万円以上50万円未満）のとおりである。このグラフでは、幼稚園や保育所への就園のタイミングで経済的負担が大きくなり、小学校から中学校にかけて経済的負担が軽減するものの、高校入学とともに経済的負担が非常に大きくなるという実態が明らかになっている。

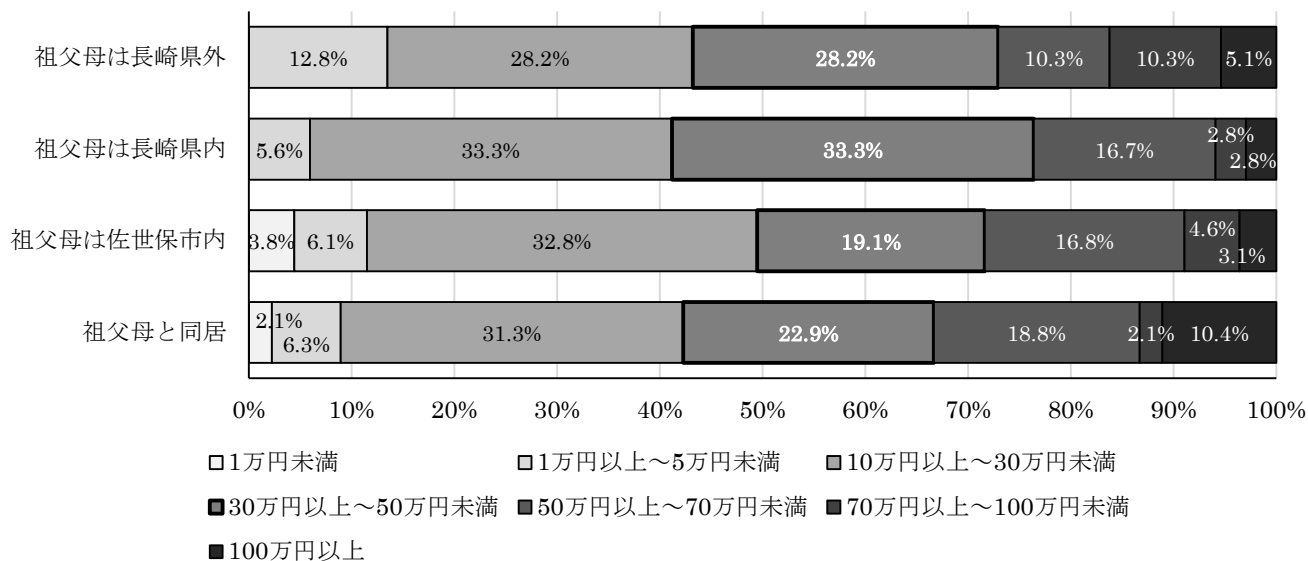
上の子の状況別・上の子の子育てに係る費用 (n=260)



(11) 祖父母等との同近居の状況別「上の子の子育てにかかる費用（年額）」

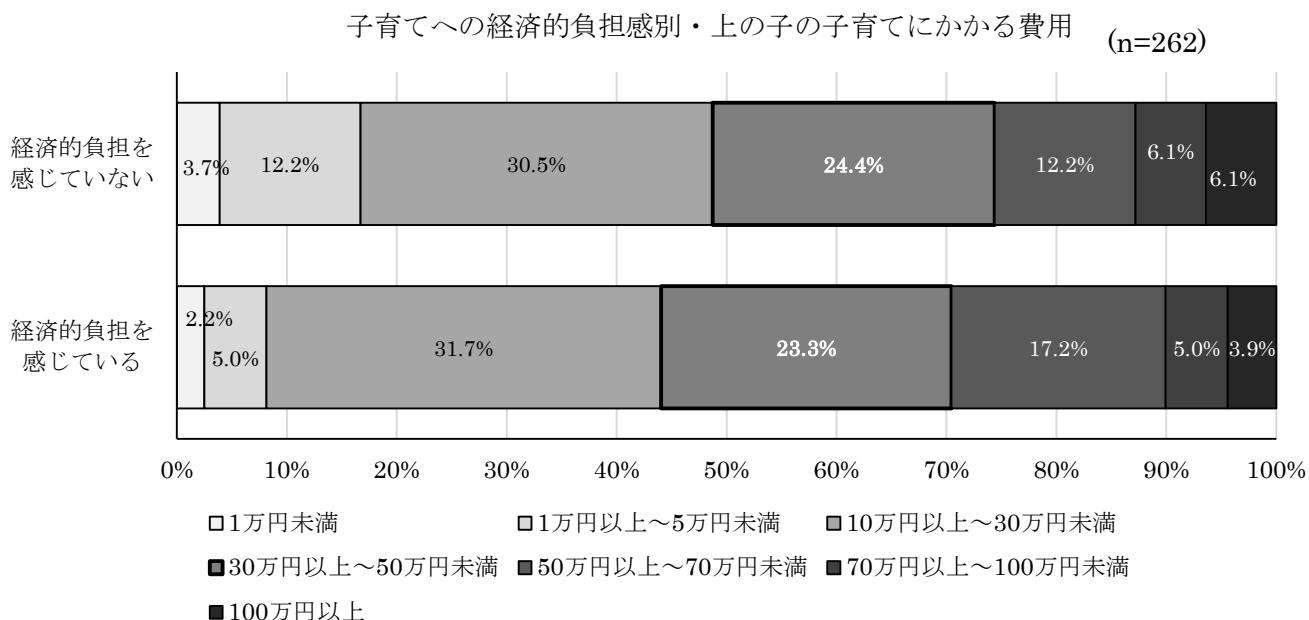
祖父母との同近居の状況別に「上の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が30万円以上50万円未満）のとおりである。今回の調査データを見る限りでは、祖父母との同近居と子育てに係る費用との関係性は特に見られなかった。

祖父母との同近居の状況別・上の子の子育てにかかる費用 (n=254)



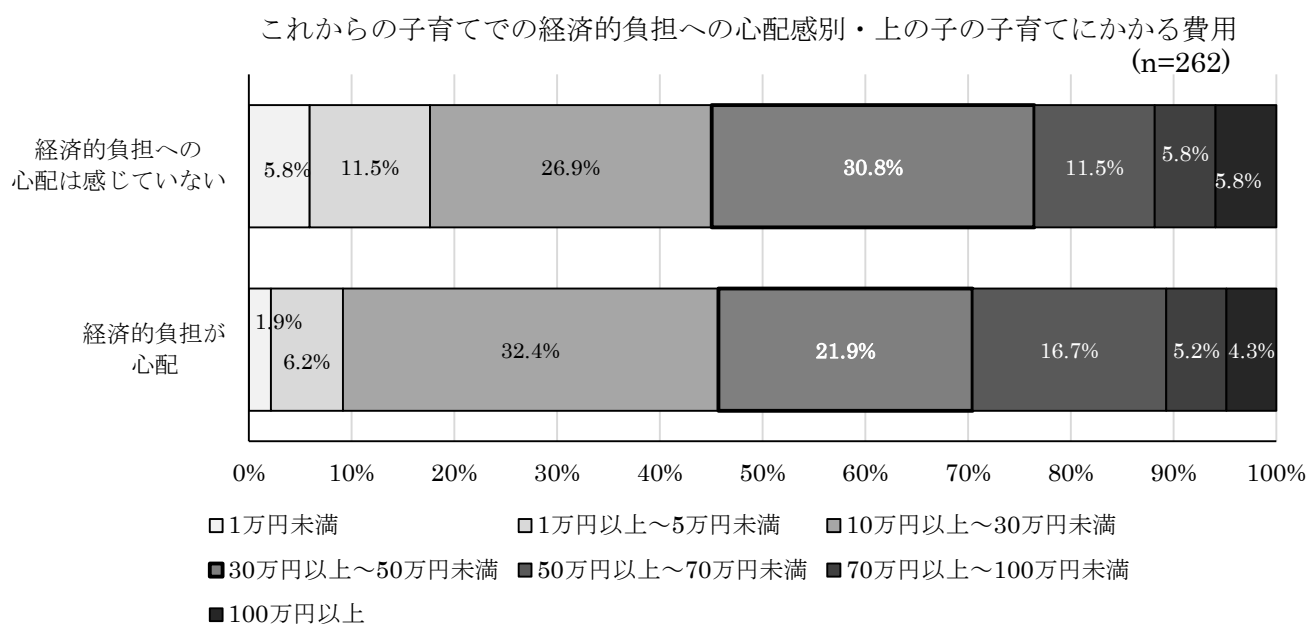
(12) 子育てへの経済的負担感別「上の子の子育てにかかる費用（年額）」

子育てに経済的負担を感じているかどうかの別で「上の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が30万円以上50万円未満）のとおりである。今回の調査データにおいては、上の子の子育てに年額50万円以上かかる世帯は、わずかではあるが、経済的負担を感じている世帯の方が多いことがわかる。



(13) 子育ての経済的負担への心配感別「上の子の子育てにかかる費用（年額）」

これからの子育てで経済的負担に心配を感じているかどうかの別で「上の子の子育てにかかる費用（年額）」を見ると、次のグラフ（太線区分が30万円以上50万円未満）のとおりである。今回の調査データにおいては、上の子の子育てに年額50万円以上かかる世帯は、わずかではあるが、経済的負担に心配を感じている世帯の方が多いことがわかる。

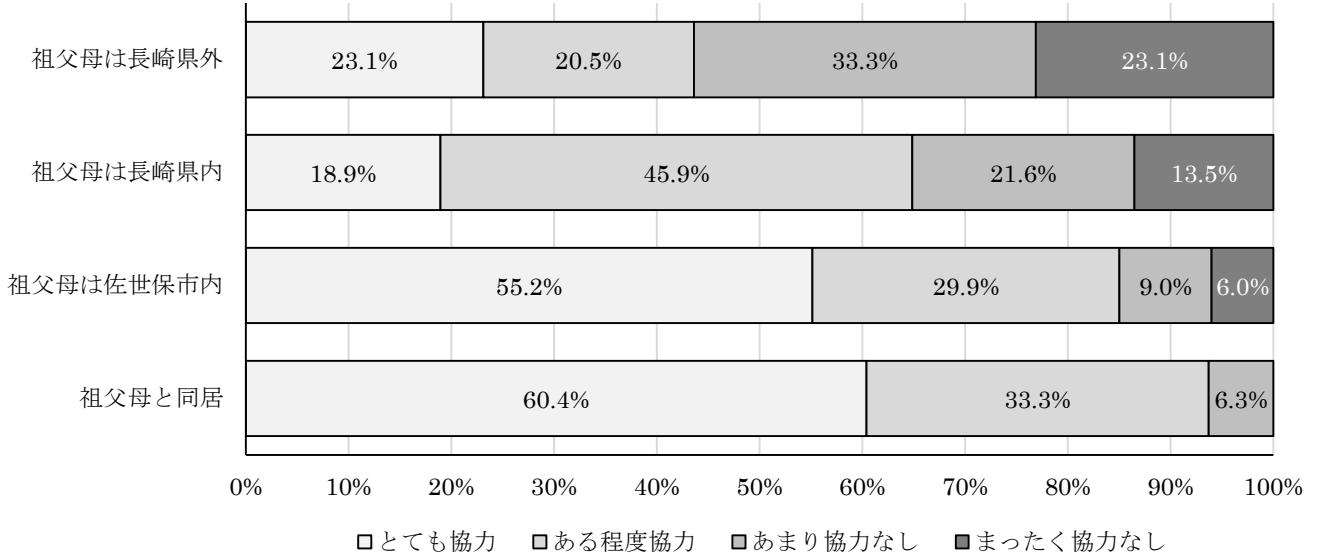


(14) 祖父母等との同近居の状況別「祖父母の子育てへの協力（費用以外の面）」

祖父母との同近居の状況別に「祖父母の子育てへの協力（費用以外の面）」を見ると、次のグラフのとおり、祖父母の居住地が近いほど、子育てへの協力が得られていることがわかる。

祖父母との同近居の状況別・「祖父母の子育てへの協力（費用以外の面）」

(n=258)

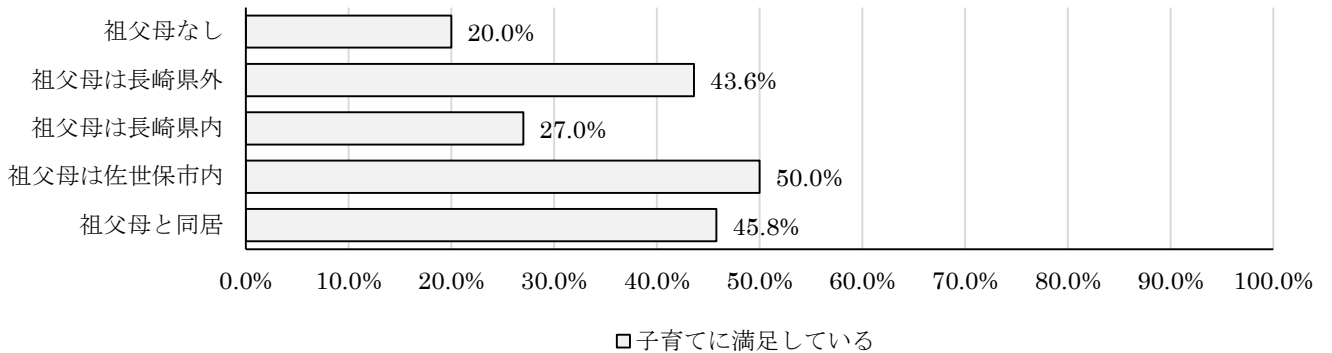


(15) 祖父母等との同近居の状況別「子育てへの満足度」「子育てへの幸福感」

祖父母との同近居の状況別に「子育てへの満足度」「子育てへの幸福感」を見ると、次のグラフのとおり、祖父母の居住地が近いほど、「子育てへの幸福感」が得られていることがわかる。

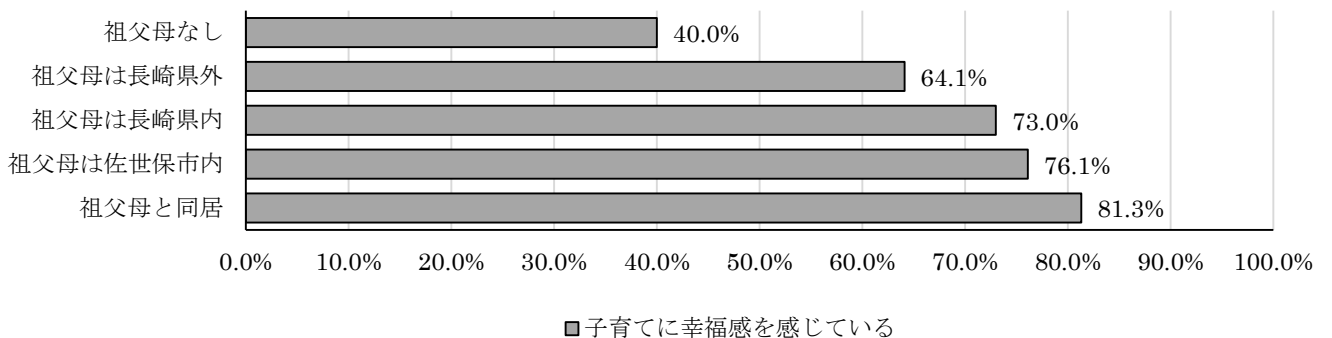
祖父母との同近居の状況別・「子育てへの満足度」

(n=263)



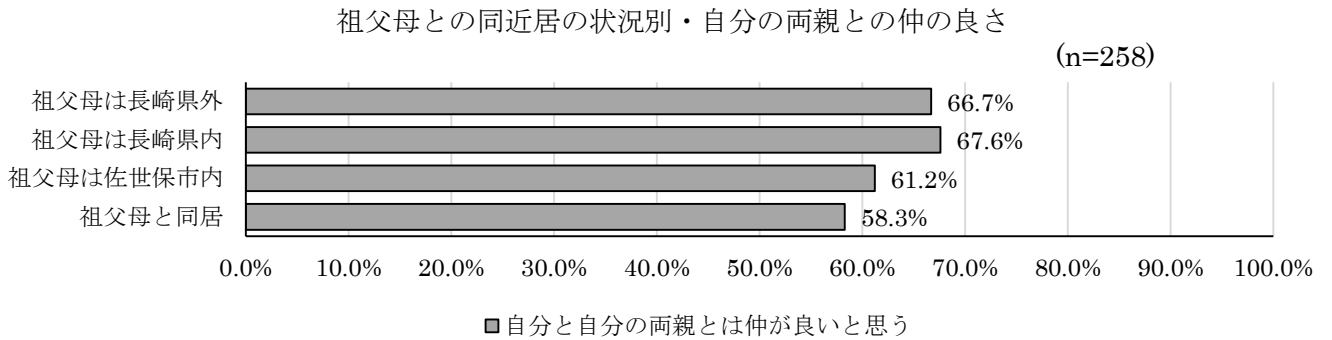
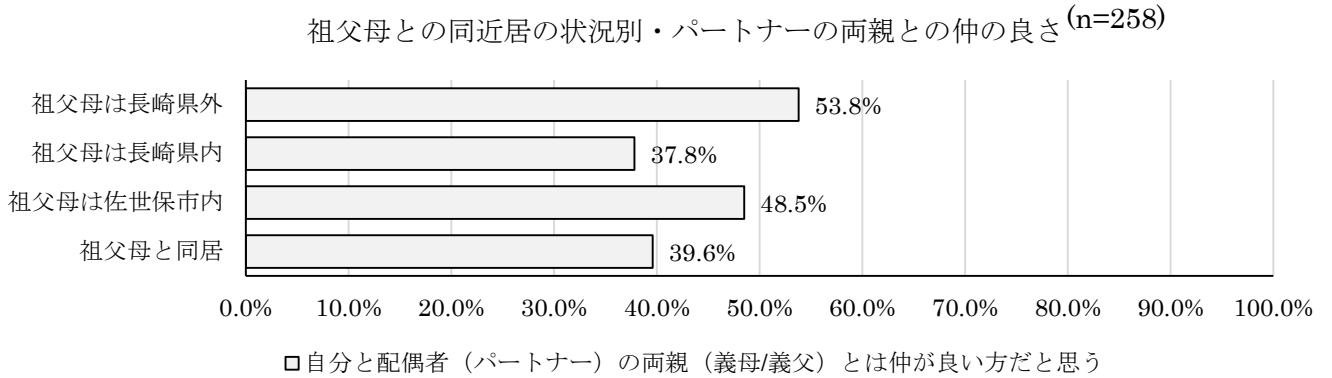
祖父母との同近居の状況別・「子育てへの幸福感」

(n=263)



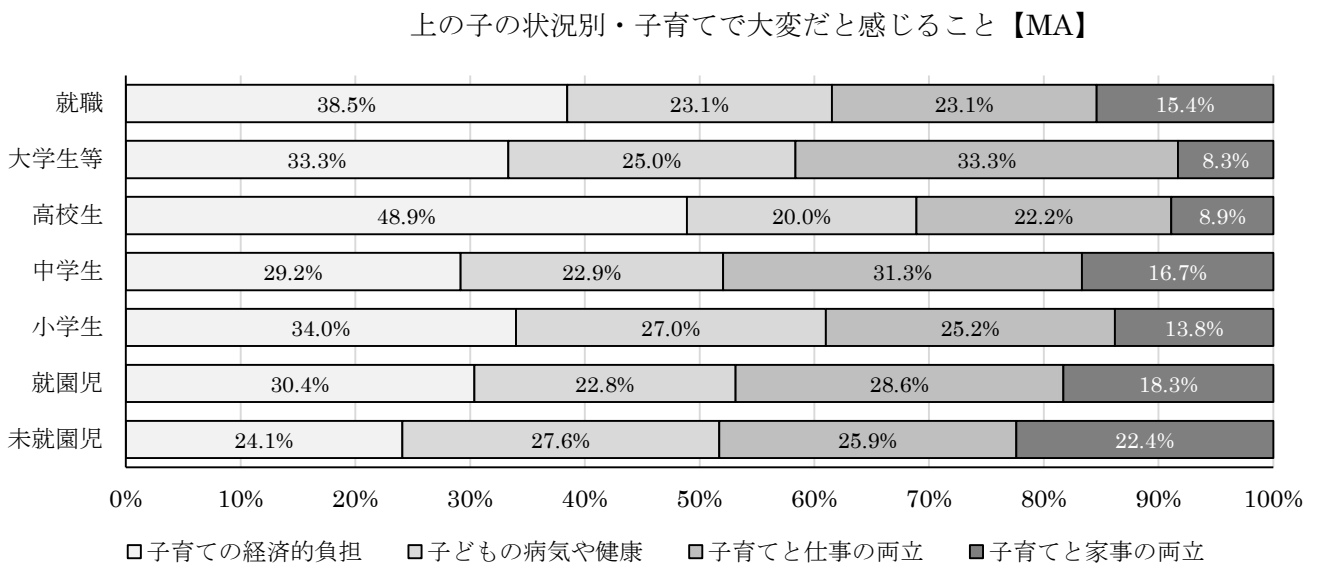
(16) 祖父母等との同近居の状況別「両親との仲の良さ」

祖父母との同近居の状況別に「子育てへの満足度」「子育てへの幸福感」を見ると、次のグラフのとおり、わずかではあるが、祖父母の居住地が遠いほど、両親と仲が良い傾向にあることがわかる。



(17) 上の子の状況別「子育てで大変だと感じること（回答上位4項目）」

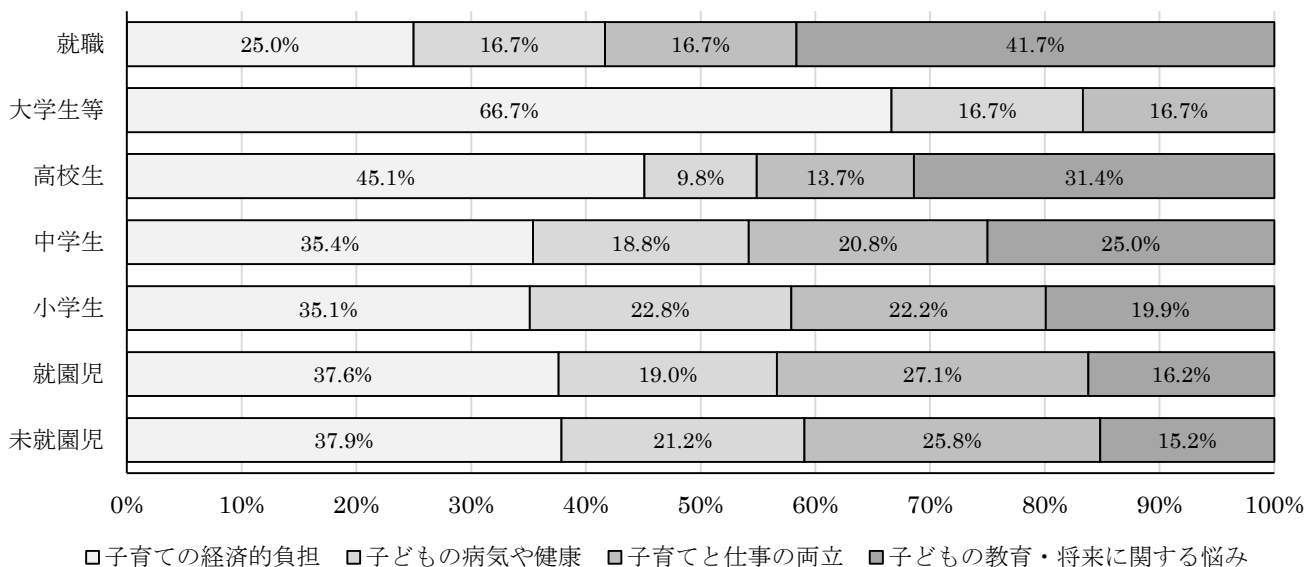
「子育てで大変だと感じること」を回答数の多かった上位4項目に絞ってその構成比を上の子の状況別に見てみると、この調査では、回答母数の影響で多少誤差はあると思われるが、「子育ての経済的負担」との回答は子どもの学齢が高いほど回答割合も高い傾向にあり、「子育てと家事の両立」は子どもの学齢が高いほど回答割合は低い傾向にあることがわかる。



(18) 上の子の状況別「子育てでこれから心配なこと（回答上位4項目）」

「子育てでこれから心配なこと」を回答数の多かった上位4項目に絞ってその構成比を上の子の状況別に見てみると、回答母数の影響が見られるものの、「子どもの教育・将来に関する悩み」との回答は子どもの学齢が高いほど回答割合も高い傾向にあり、「子育てと仕事の両立」は子どもの学齢が高いほど回答割合は低い傾向にあることがわかる。

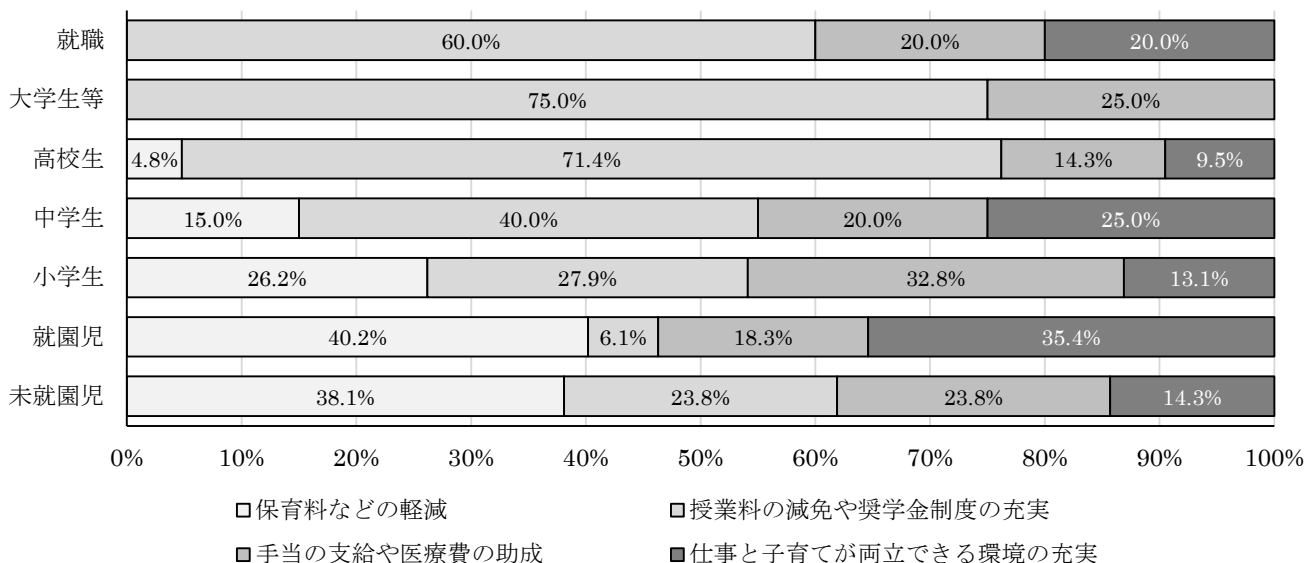
上の子の状況別・子育てでこれから心配なこと【MA】



(19) 上の子の状況別「今一番求めている子育て支援（回答上位4項目）」

「今一番求めている子育て支援」を回答数の多かった上位4項目に絞ってその構成比を上の子の状況別に見てみると、次のグラフのとおりであった。大学生等以上の学齢については回答母数の影響があるが、「保育料などの軽減」と回答した割合は学齢が低いほど高い傾向にあり、「授業料の減免や奨学金制度の充実」は学齢が高校生では回答の割合が70%を超えている。

上の子の状況別・今一番求めている子育て支援 (n=214)



3 集計結果の個別分析

(1) 集計結果の個別分析のまとめ

生活環境調査については、世帯収入や祖父母との同近居の状況が子育てにどのような影響を与えているかについて検討を行った。

なお、今回の調査は「子育て世帯」という広い括りの中で調査したことから、保護者や子どもの年齢層にも幅があり、1つのクロス集計だけで何らかの傾向をつかむのが非常に難しいという前提になっている。

まず、世帯収入別の子どもの数を見ると、世帯年収700万円を境に、それ以上の世帯で「子ども2人」以上の割合が80%を超えている。ここには保護者の年齢が高くなるにつれて世帯収入も多くなった世帯なども含まれると思われるが、世帯収入の多さが子どもの数に影響を与えている可能性については、ある程度窺い知ることができたものとする。

次に、世帯収入別の状況を見ると、子育てにかかる費用については、上の子・下の子を問わず、概ね世帯収入が多いほど子育てにかかる費用も高い傾向にあることがわかった。関連で、世帯収入別の子育てで大変だと感じる事、子育てでこれから心配なことについては、世帯収入が多いほど子育ての経済的負担と回答した割合が低い傾向にあることがわかった。他方、子育てへの満足度や幸福感については、世帯収入との相関的な傾向は見られなかった。

また、子育てにかかる費用の状況を見るため、上の子の子育てにかかる費用とその他の調査項目との関係を見たところ、子どもの学齢別では、幼稚園や保育園への就園時に経済的負担が大きくなり、小学校・中学校時には負担が軽減するものの、高校入学とともに経済的負担が大きくなっている。この子育てにかかる費用については、祖父母との同居や近居との関係性は見られなかった。子育てへの経済的負担感等との関係性では、子育てにかかる費用が大きいほど経済的負担感を感じている世帯が多いがごくわずかであって、その傾向にあるとまではいい難いとする。

祖父母との同近居が子育て世帯に与えている影響を見てみると、祖父母と同居または祖父母が佐世保市内在住の世帯は、費用以外の面で子育てにとっても協力してもらっているとの回答が過半数となっているが、市外・県内の場合は2割前後と大きな差が生じている。祖父母との同近居では、祖父母の居住地が近いほど子育てへの幸福感を感じている割合が高くなっているが、祖父母の居住地が近いほど自分の両親と仲が良いとの回答割合が低くなる傾向にあることがわかった。

子どもの学齢と子育てへの負担感などの関係を見ると、子育てと家事の両立が大変だと感じている割合は未就園児世帯が最も大きく、学齢が上がるごとにその割合が小さくなっている。一方で、回答母数による誤差はあるものの、これから心配なこととして子どもの教育や将来に関する悩みと回答した割合は、学齢が高くなるほど高くなる傾向にあることが分かった。

以上のとおり、世帯収入や祖父母との同近居などによる影響としては、一般的に想定されるおりの傾向であったが、これらの傾向を具体的な施策として落とし込んでいくためには、回答母数を増やした調査を実施した上で、さらに詳細な分析を行う必要がある。

調査3 子どもと子育てを取り巻く地域環境に関する調査

1 調査の目的

(1) 調査の目的

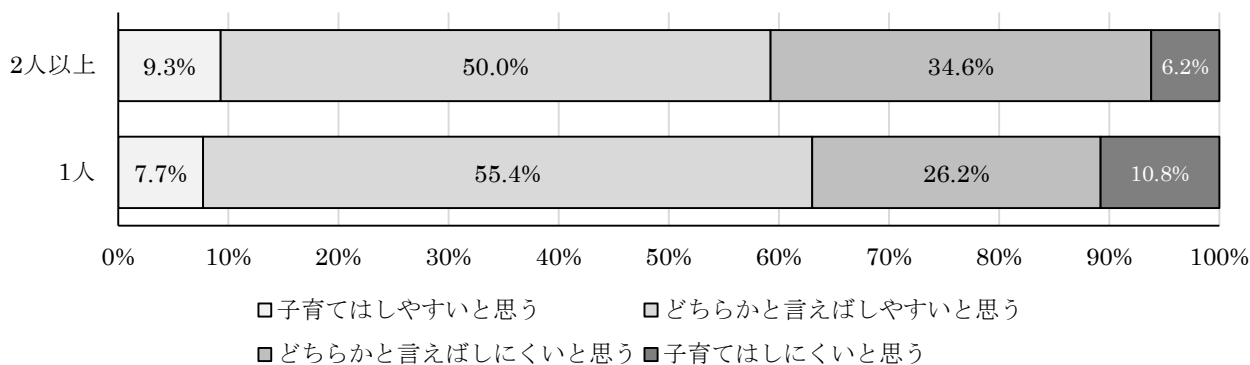
「子どもと子育てを取り巻く地域環境に関する調査」は、子育て世帯にとって佐世保市が子育てしやすいまちかどうかについて、佐世保市の状況を比較可能なデータと対比することで、佐世保市の子どもと子育てを取り巻く地域環境が与えている影響等について検証を試みるものである。また、子どもや子育てに対する意識や環境の差が、子育てしやすいまちと感ずるか否かに影響を与えているかどうかも同様に検証を試みるものである。

2 調査集計の結果

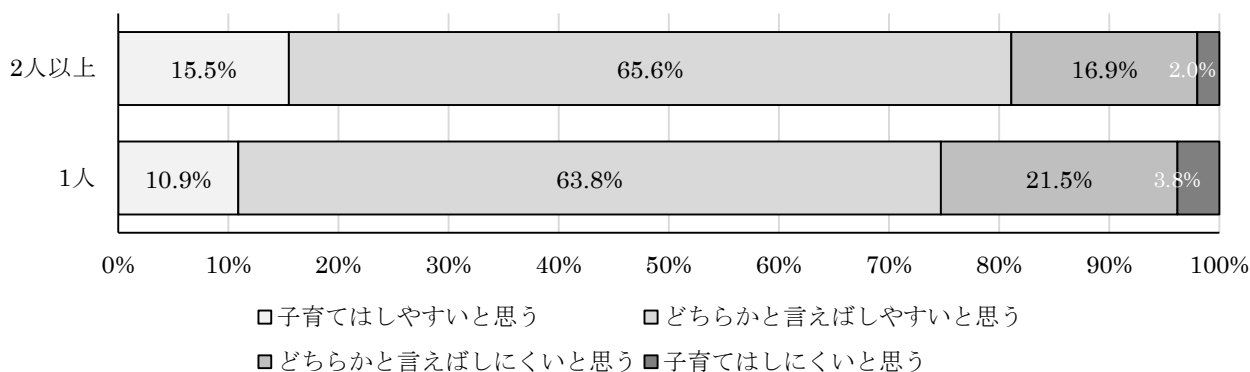
(1) 子育てしやすいまちだと思うか

佐世保市が子育てしやすいまちだと思うかどうかについて、「子育てはしやすい」「どちらかと言えばしやすい」と回答した割合が、子ども1人の世帯の場合は63.1%、子ども2人以上の世帯の場合は59.3%であった。これと同内容の1 more baby 応援団調査の結果を見ると、子ども1人の世帯の場合は74.7%、子ども2人以上の世帯の場合は81.1%であった。それぞれの調査における回答者の傾向ではあるものの、子どもの数に関わらず佐世保市の方が子育てしやすいと回答した割合が低く、特に佐世保市の場合は、子ども1人よりも2人以上の方が子育てしやすいと回答した割合が低くなっている。

子どもの数別・子育てしやすいと思うか（佐世保市） (n=227)

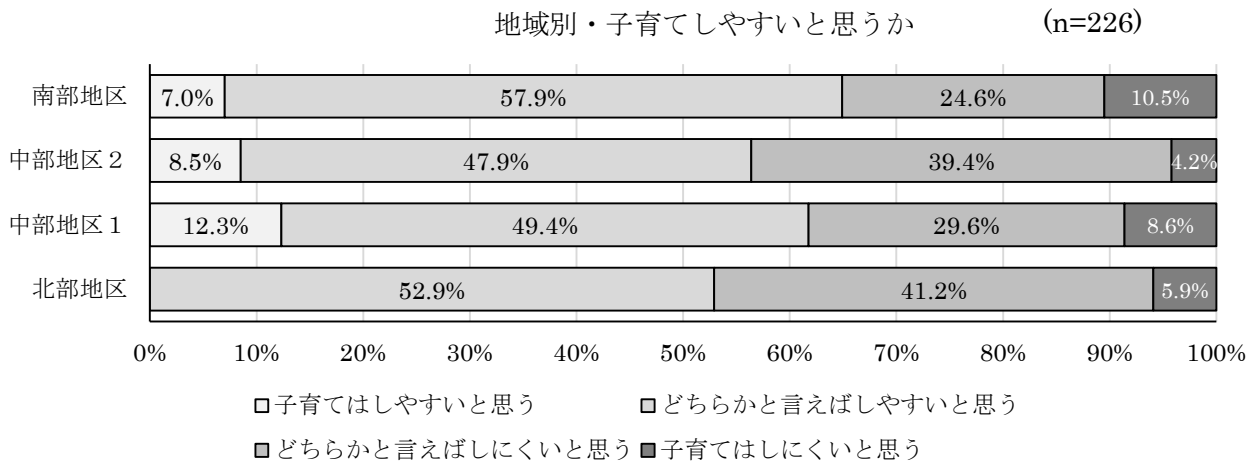


子どもの数別・子育てしやすいと思うか（1 more baby 応援団調査・全国）



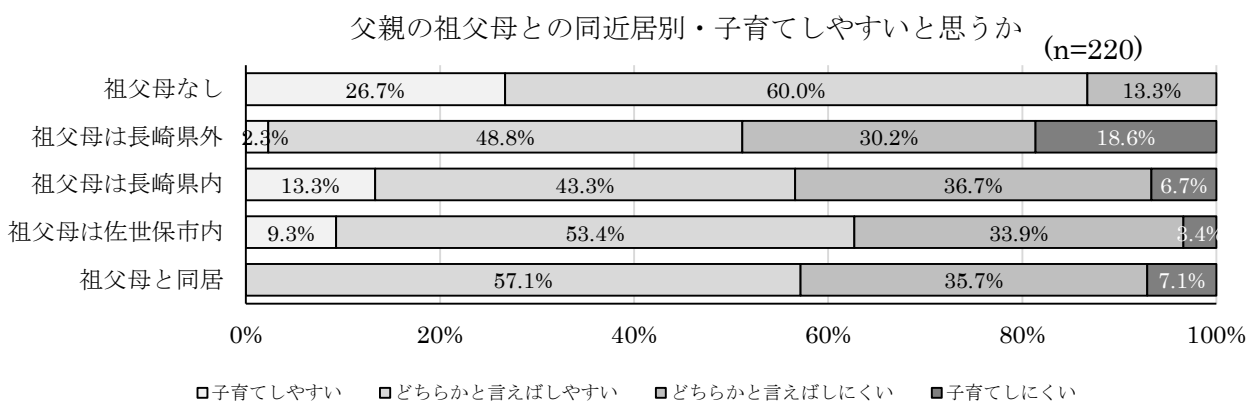
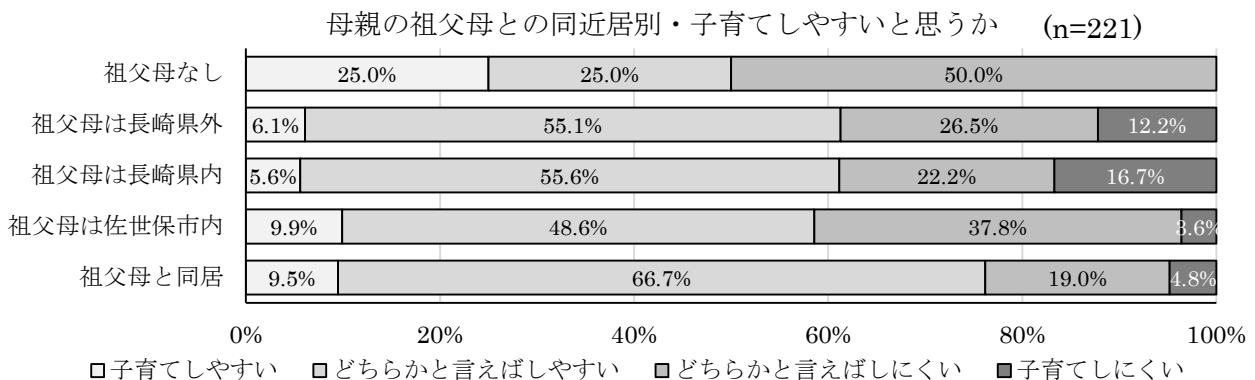
(2) 地域別「子育てしやすいまちだと思うか」

地域別に「子育てしやすいまちだと思うか」を尋ねたところ、「子育てはしやすい」「どちらかと言えばしやすい」と回答した割合が、北部地区（江迎・鹿町・吉井・世知原・小佐々・浅子・宇久）では52.9%と最も低く、最も高い南部地区（日宇・早岐・広田・宮・三川内・東明）の64.9%との差が12ポイントと大きく開いている。



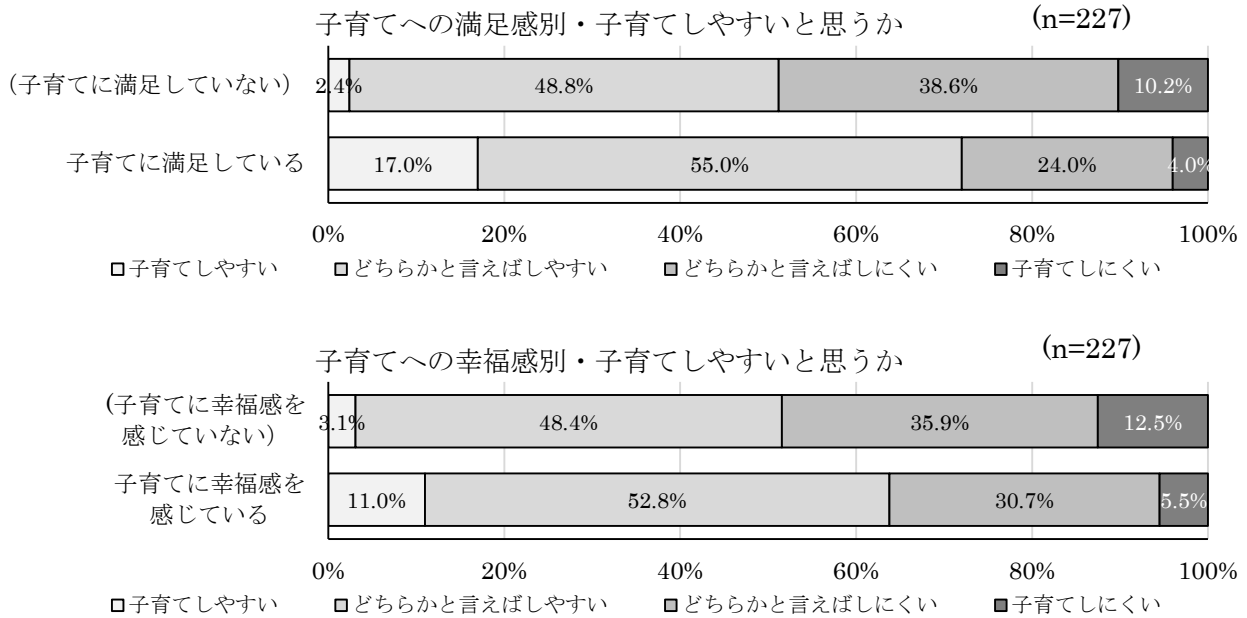
(3) 祖父母と同近居別「子育てしやすいまちだと思うか」

祖父母との同近居別に「子育てしやすいまちだと思うか」を尋ねたところ、回答母数の少ない祖父母なしを除くと、「母親の祖父母と同居」で「子育てはしやすい」「どちらかと言えばしやすい」と回答した割合が最も高く76.2%で、父親の祖父母との関係では、「祖父母は佐世保市内」のと回答した割合の62.7%が最も高い。



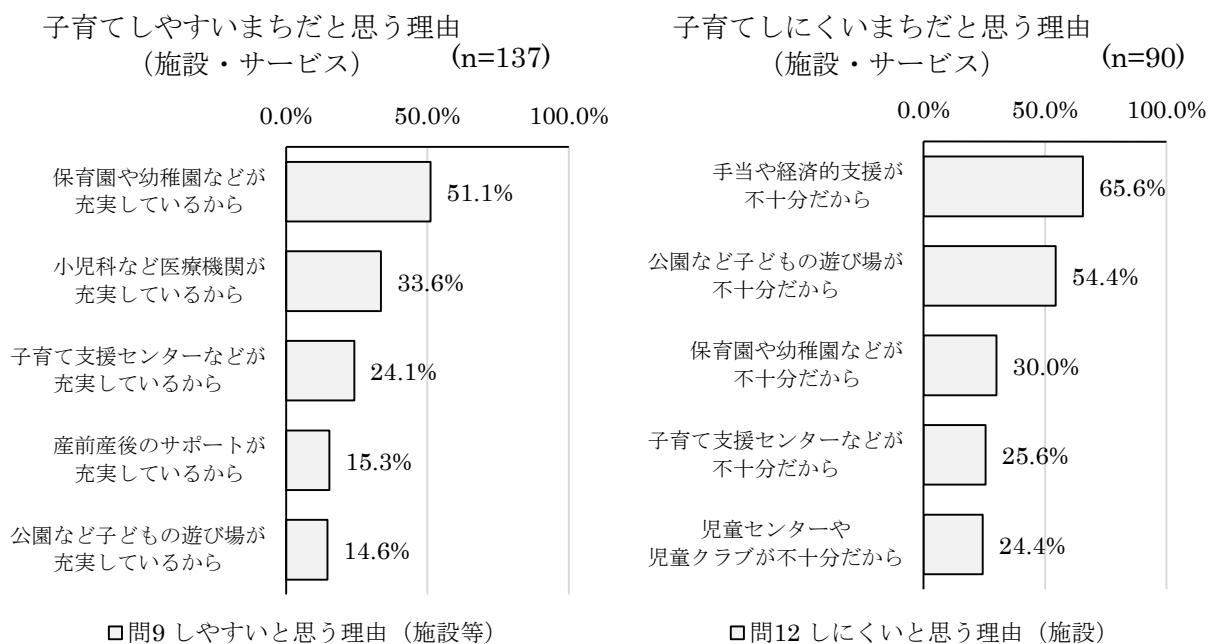
(4) 子育てへの満足感・幸福感じ別「子育てしやすいまちだと思うか」

子育てへの満足感・幸福感じ別に「子育てしやすいまちだと思うか」を尋ねたところ、いずれの場合も、満足感・幸福感を感じていると回答した世帯の方が、「子育てはしやすい」「どちらかと言えばしやすい」と回答した割合が最も高く、特に、子育てに満足している世帯は満足していない世帯と比較して20ポイント以上高い。



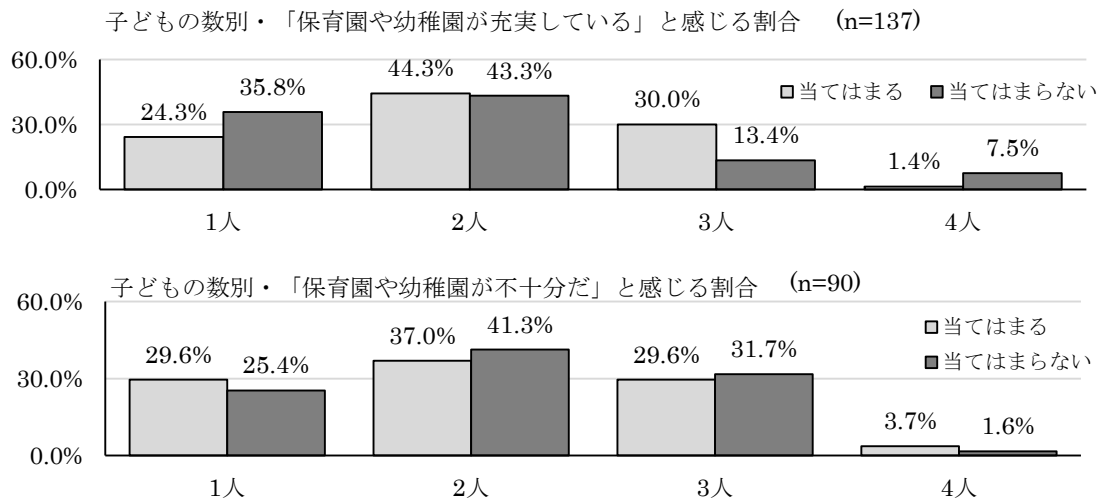
(5) 「子育てしやすいまちだと思う理由」「子育てしにくいまちだと思う理由」(施設・サービス)

子育てしやすいまちか否かの理由に関する回答について、施設やサービスに関するものの上位5項目は、次のグラフのとおりである。このうち「保育園や幼稚園の充実」は子育てしやすい理由のトップで50%を超えているが、子育てしにくい理由としても30%の方が理由にあげている。「子育て支援センターの充実」は、それぞれ3位、4位で回答割合も25%前後とほぼ同割合でもあることから、具体的に内容を確認する必要がある。



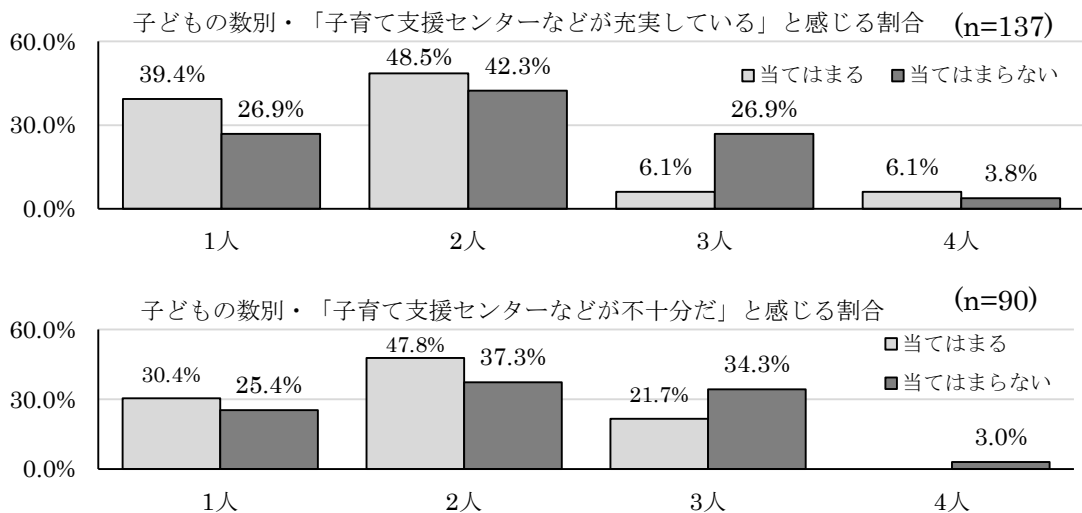
(6) 保育園や幼稚園が充実していると感じることと子どもの数の相互関係

子育てしやすいまちと回答した方のうち「保育園や幼稚園が充実しているから」と回答した割合と、子育てしにくいまちと回答した方のうち、「保育園や幼稚園が不十分だから」と回答した割合とを、その回答した世帯の子どもの数別に比較すると次のグラフのとおりである。このうち、子育てしやすいまちと回答した方については、比較的孩子の数が多い方が「保育園や幼稚園の充実」に当てはまる割合が高いことがわかる。ただし、子育てしにくいまちと回答した方については、「保育園や幼稚園が不十分だから」に当てはまる割合と子どもの人数とは相互の関係性があまり見られなかった。



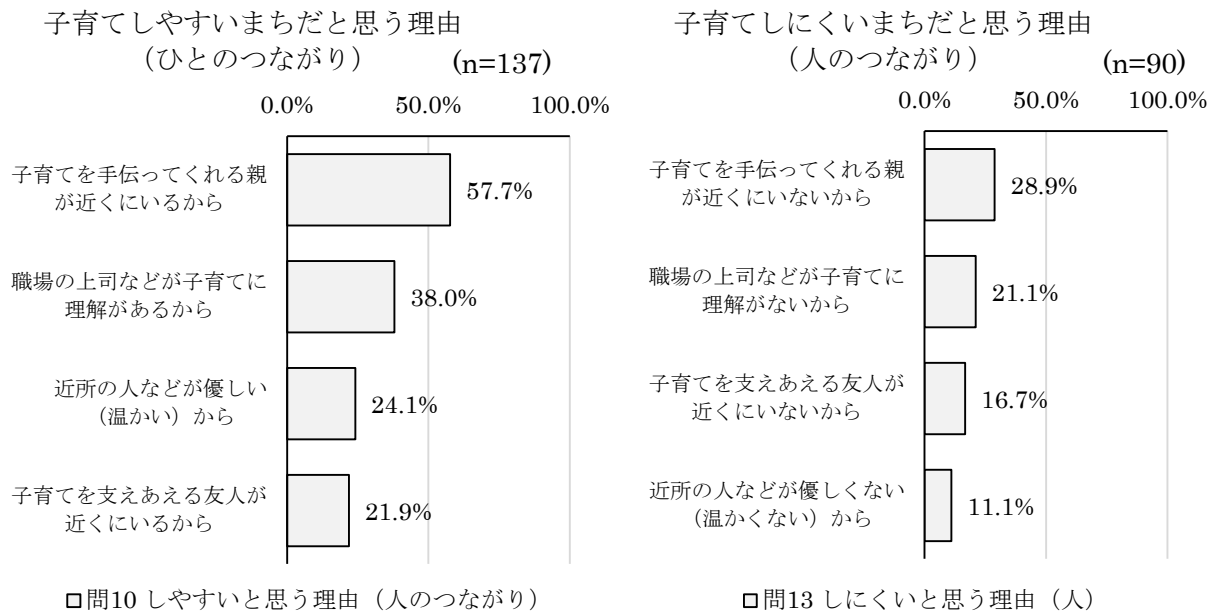
(7) 子育て支援センターなどが充実していると感じることと子どもの数の相互関係

子育てしやすいまちと回答した方のうち「子育て支援センターなどが充実しているから」と回答した割合と、子育てしにくいまちと回答した方のうち、「子育て支援センターなどが不十分だから」と回答した割合とを、その回答した世帯の子どもの数別に比較すると次のグラフのとおりである。これを見ると、子育てしやすいまちと回答した方は、比較的孩子の数が少ない方が「子育て支援センターなどが充実」に当てはまる割合が高く、子育てしにくいまちと回答した方についても、比較的孩子の数が少ない方が「子育て支援センターなどが不十分」に当てはまる割合が高いことから、子どもの数が少ないほど、子育て支援センターへの関心が高いと考えられる。



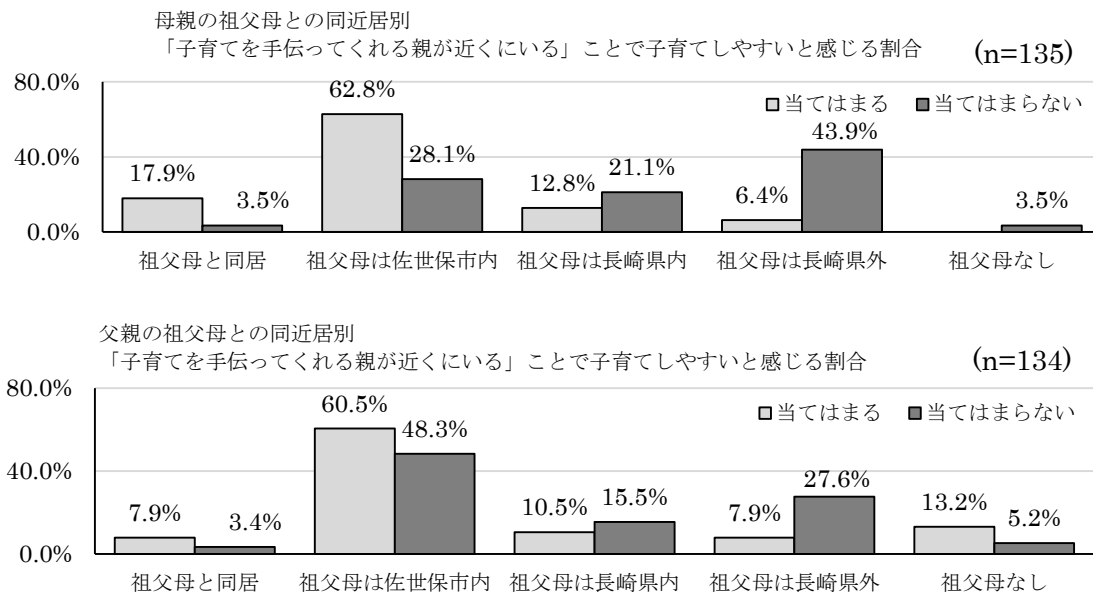
(8) 「子育てしやすいまちだと思ふ理由」「子育てしにくいまちだと思ふ理由」(人のつながり)

子育てしやすいまちか否かの理由に関する回答について、人のつながりに関するものは、次のグラフのとおりである。このうち、子育てを手伝ってくれる親の有無、職場の上司の子育てへの理解が、それぞれの上位2項目であった。特に、子育てしやすいまちだと感じる方の過半数が、「子育てを手伝ってくれる親が近くにいる」ことを理由に挙げていることから、親(子どもの祖父母)との距離がどのように影響しているかを具体的に見る必要がある。



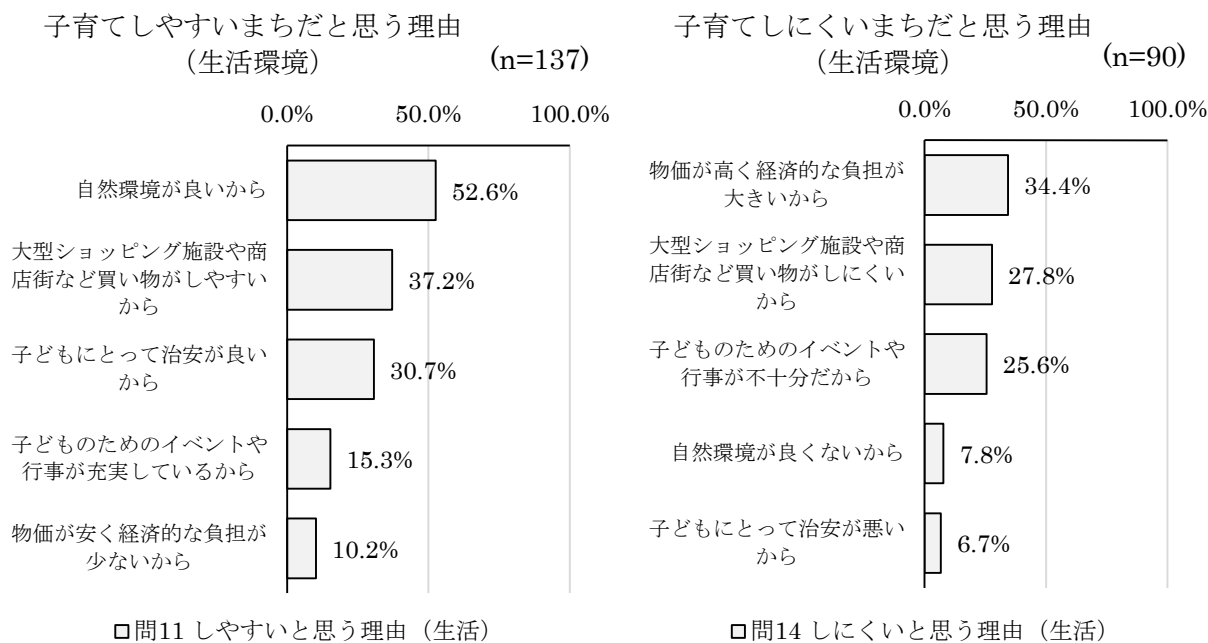
(9) 子育てを手伝ってくれる親との距離感と子育てしやすいの相互関係

子育てしやすいまちと回答した方のうち、「子育てを手伝ってくれる親が近くにいるから」と回答した割合を、実際の親(子どもの祖父母)との同近居の状況とで比較してみると、次のグラフのとおりになる。これを見ると、子育てしやすいまちと回答した方は、祖父母との距離が近くなるほど、「子育てを手伝ってくれる親が近くにいる」ことで子育てしやすいと感じていることがわかる。この傾向は、母親の祖父母との距離感において、より傾向が顕著である。



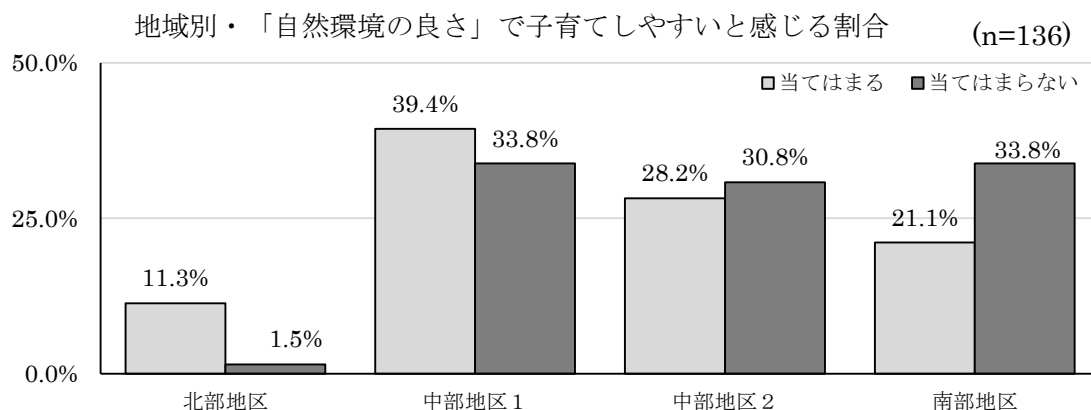
(10) 「子育てしやすいまちだと思ふ理由」「子育てしにくいまちだと思ふ理由」(生活環境)

子育てしやすいまちか否かの理由に関する回答について、生活環境に関するものは、次のグラフのとおりである。このうち「自然環境が良いから」は子育てしやすい理由のトップで50%を超えている。子育てしにくい理由としては、「物価が高く経済的な負担が大きい」が最も高い割合になっている。「大型ショッピング施設や商店街など買い物がしやすい(しにくい)」は、それぞれ2番目に高い回答割合であり、具体的に内容を確認する必要がある。



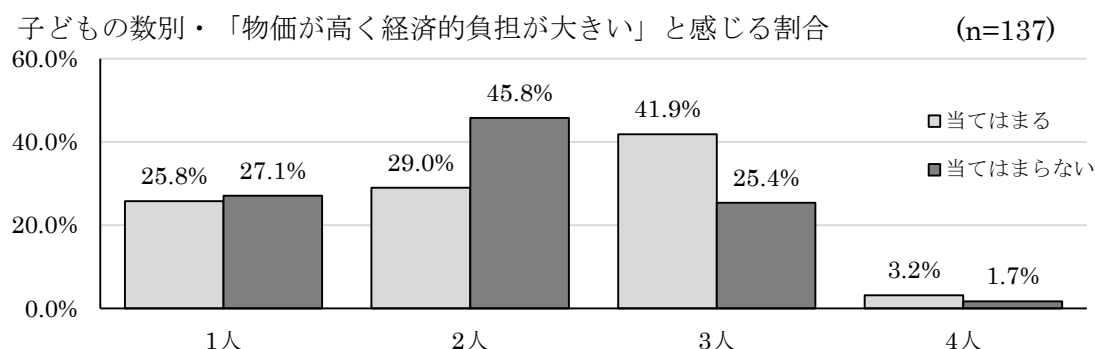
(11) 自然環境の良さの地域性と子育てしやすいさの相互関係

子育てしやすいまちと回答した方のうち、「自然環境が良いから」と回答した割合を、居住地域別に比較してみると、次のグラフのとおりになる。これを見ると、北部地区(江迎・鹿町・吉井・世知原・小佐々・浅子・宇久)で子育てしやすいまちと回答した方の大部分が、自然環境が良いことをその理由に挙げている。一方、南部地区(日宇・早岐・広田・宮・三川内・東明)で子育てしやすいまちと回答した方については、その多くが自然環境の良さをその理由にはしていない。なお、中部地区については、「自然環境の良さ」を理由とした割合が概ね半数程度となっている。



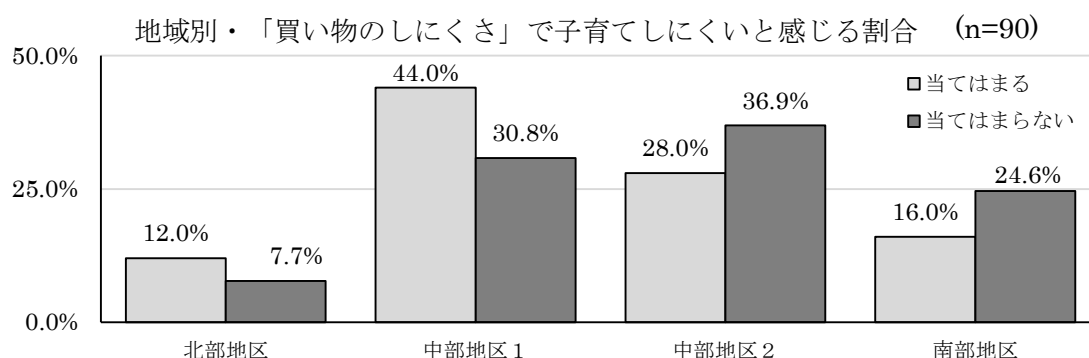
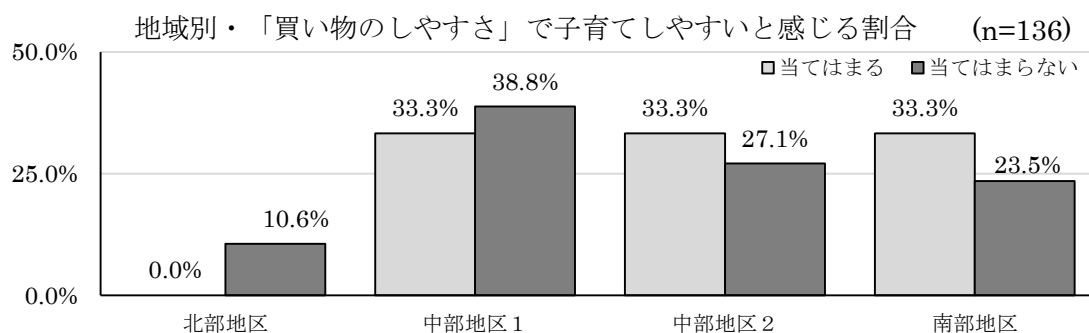
(12) 物価が高く経済的負担が大きいと感じることと子どもの数の相互関係

子育てしにくいまちと回答した方のうち「物価が高く経済的負担が大きいから」と回答した割合を、その回答した世帯の子どもの数別に比較すると次のグラフのとおりである。これを見ると、子どもの数が2人の場合は当てはまらないとの回答割合が高く、子どもの数が3人の場合は当てはまるとの回答割合が高いことから、比較的子どもの数が多い方が「物価が高く経済的負担が大きいから」に当てはまる割合が高いと考えられる。



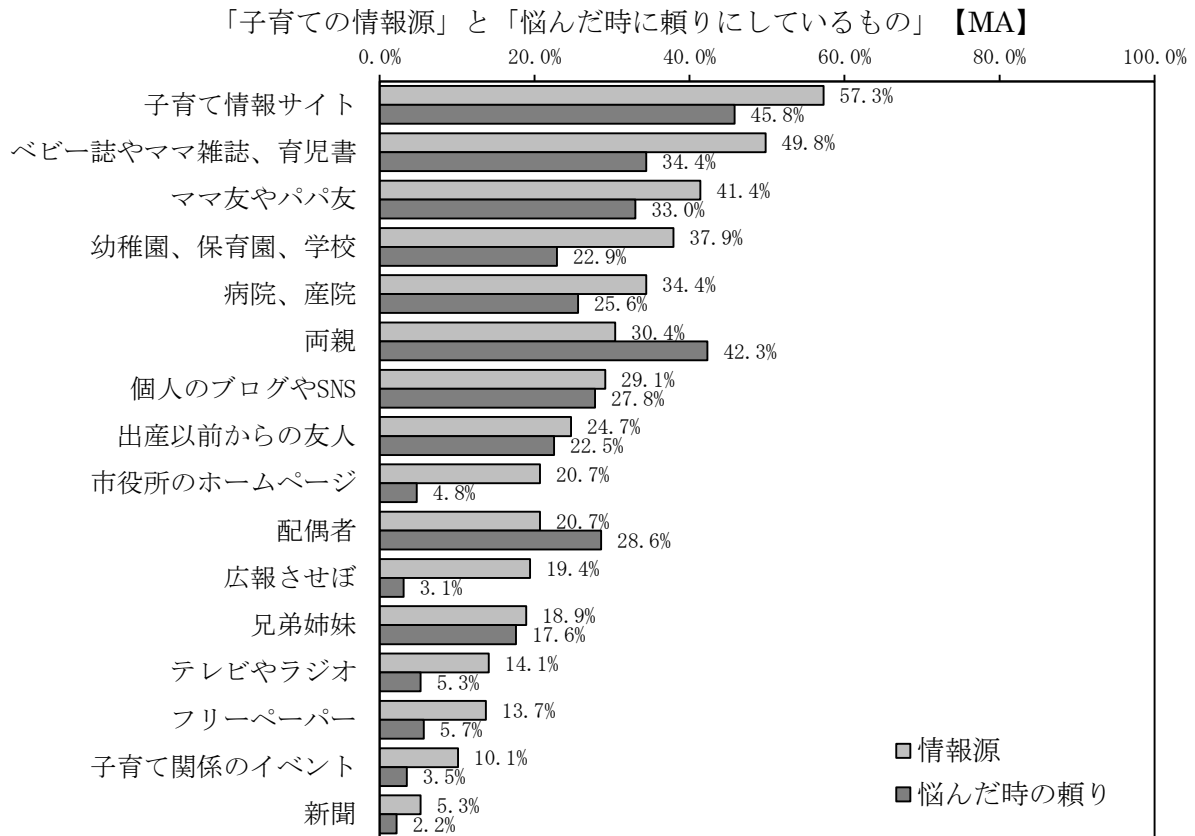
(13) 買い物のしやすさの地域性と子育てしやすさの相互関係

子育てしやすいまちと回答した方のうち、「大型ショッピング施設や商店街など買い物がしやすいから」と回答した割合を、子育てしにくいまちと回答した方のうち「大型ショッピング施設や商店街など買い物がしにくいから」と回答した割合を、居住地域別に比較してみると、次のグラフのとおりになる。これを見ると、北部地区（江迎・鹿町・吉井・世知原・小佐々・浅子・宇久）と中部地区1（野崎・愛宕・日野・相浦・黒島・中里・大野・柚木）では、買い物のしにくさが子育てのしにくさにつながっている傾向にあり、中部地区2（光海・清水・祇園・山澄・福石・崎辺）、南部地区（日宇・早岐・広田・宮・三川内・東明）では、買い物のしやすさが子育てしやすさにつながっていると考えられる。



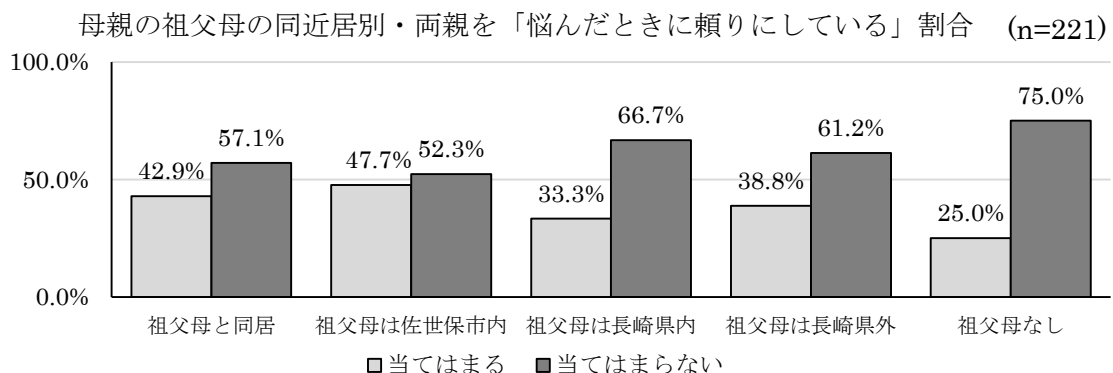
(14) 「子育ての情報源」と「悩んだ時に頼りにしているもの」の違い

出産、育児について、「情報を知りたいときに頼りにしているもの」と「考えたり、悩んだりしたときに頼りにしているもの」を比較すると、次のグラフのとおりであった。いずれも、「子育て情報サイト」が最も高い回答割合になっており、情報源としては、次いで「ベビー誌やママ雑誌等」となっている。他方、悩んだ時に頼りにしているものは、「子育て情報サイト」に次いで「両親」の回答割合が高くなっており、悩んだときの相談相手として、両親の役割が大きいことがわかる。



(15) 祖父母の同近居が「悩んだ時に頼りにしているもの」に与える影響

考えたり、悩んだりしたときに頼りにしているもので「両親」と回答した方が、特に母親の祖父母との同近居の状況でどのように影響しているかを見たところ、次のグラフのとおり、祖父母と同居または佐世保市内に近居している場合の方は、それ以外の場合と比較してわずかではあるが回答割合が高いことがわかる。



3 集計結果の個別分析

(1) 集計結果の個別分析のまとめ

地域環境調査については、佐世保市が子育てしやすいまちであるかどうかを比較可能なデータと対比し、その上で、佐世保市の子どもと子育てを取り巻く環境について調査を行ったものである。

まず、佐世保市が子育てしやすいまちかどうかについての設問には、「子ども1人」の世帯の63.1%、「子ども2人以上」の世帯の59.3%が、子育てしやすいまちだと回答している。しかしながら、全国調査である1 more baby 応援団が実施した調査の結果では、自分の住む都道府県がすみやすいかどうかについて、「子ども1人」の世帯で74.7%、「子ども2人以上」の世帯で81.1%が子育てしやすいまちだと回答している。つまり、この結果の比較だけを見れば、佐世保市民は全国と比較して子育てしにくいまちだと感じていることになる。

また、佐世保市が子育てしやすいまちだと感じているかどうかの特徴を検証してみると、地域別には、佐世保市の北部地域（江迎・鹿町・吉井・世知原・小佐々・浅子・宇久）が、他の地域と比較して、子育てしやすいと感じている割合が低い。祖父母との同居・近居の別では、母親の祖父母と同居している場合が、その他の状況と比べて子育てしやすいまちだと感じている割合が非常に高い。なお、子育てに満足している世帯については、子育てしやすいまちだと感じている割合も高いことがわかる。

次に、佐世保市が子育てしやすいまちだと感じているか否かについて、その理由を検証してみると、施設やサービスについては、子育てしやすいまちだと感じている理由としては「保育園や幼稚園が充実しているから」が最も多く、子育てしにくいまちだと感じている理由としては、「手当てや経済的支援が不十分だから」との回答が最も多い。人のつながりに関する理由としては、「子育てを手伝ってくれる親が近くにいるから」子育てしやすいとの回答が最も多く、特に母親の祖父母が近くにいることが大きく影響していることがわかった。生活環境に関する理由としては、「自然環境が良いから」との回答が最も多いが、これを地域別に見ると、中部地区2（光海・清水・祇園・山澄・福石・崎辺）と南部地区（日宇・早岐・広田・宮・三川内・東明）については、「自然環境が良い」に当てはまる世帯より、当てはまらない世帯の方が多かった。

一方、出産、育児について、「情報を知りたいときに頼りにしているもの」と「考えたり、悩んだりしたときに頼りにしているもの」を見てみると、「子育て情報サイト」がどちらの設問でも最も回答者の割合が多く、子育てに関する情報をインターネットから収集している状況が明確に現れる結果となった。それでも、悩んだときに頼りにしているものの2番目に回答が多かったのが両親であり、祖父母の役割も重要であることがわかった。

以上のとおり、佐世保市が子育てしやすいまちであるかどうかを全国と単純比較すると、佐世保市は子育てしやすいまちとはなっていないが、さらに詳細な調査と分析を行うことで、佐世保市が子育てしやすいまちとなるような取り組みへとつなげていけるものと考えている。

調査 4 子育てと仕事の両立に関する調査

1 調査の目的

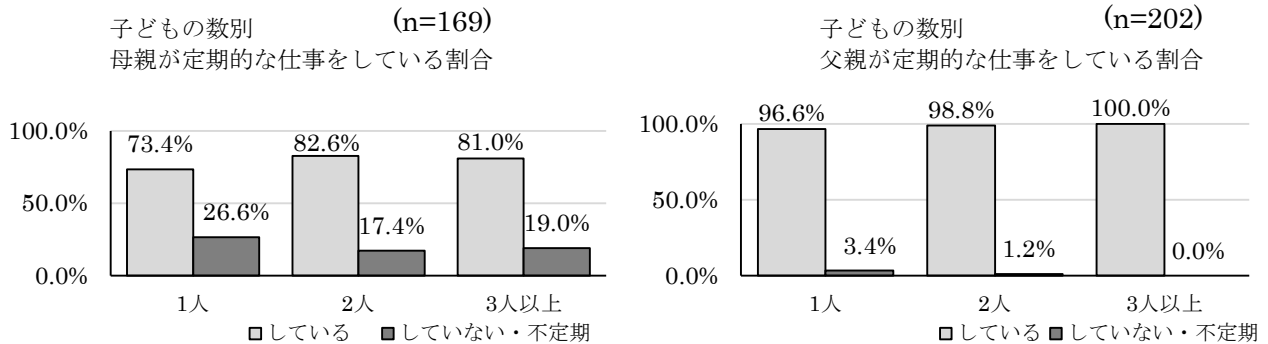
(1) 調査の目的

「子育てと仕事の両立に関する調査」は、子育て世帯の就労環境が子育てにどのように影響を与えているのか、特に、父親と母親の就労環境の差が与える影響の差などについて検証を試みるものである。また、父親と母親の就労環境の差が、相互の子育てに対する意識の差を生み出しているかについても同様に検証を試みるものである。

2 調査集計の結果

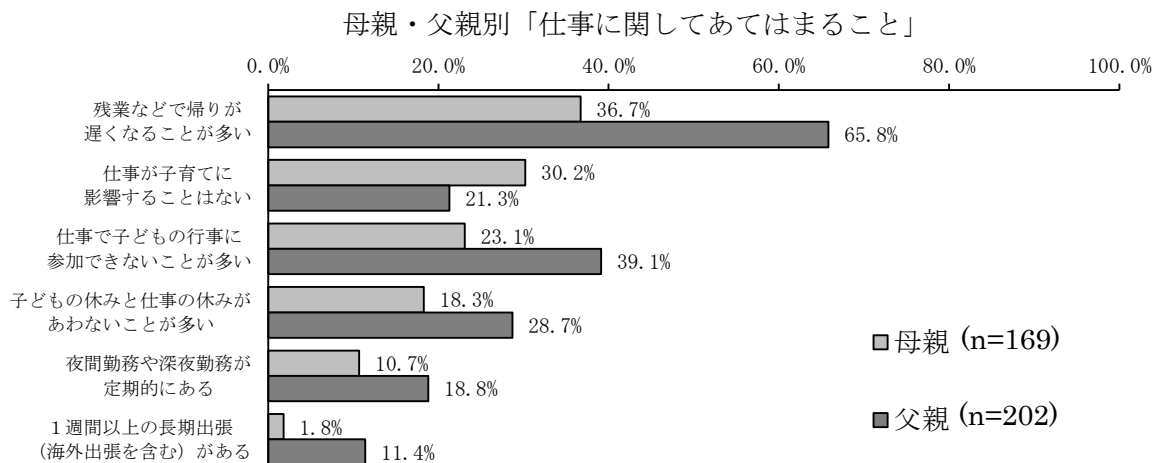
(1) 子どもの数と両親の就労状況

子どもの人数別に両親が定期的な仕事をしているかどうかを見てみると、母親については、「子どもが1人」と「子どもが2人」以上の間で、概ね10ポイント程度、定期的な仕事をする割合が高くなっていることがわかる。



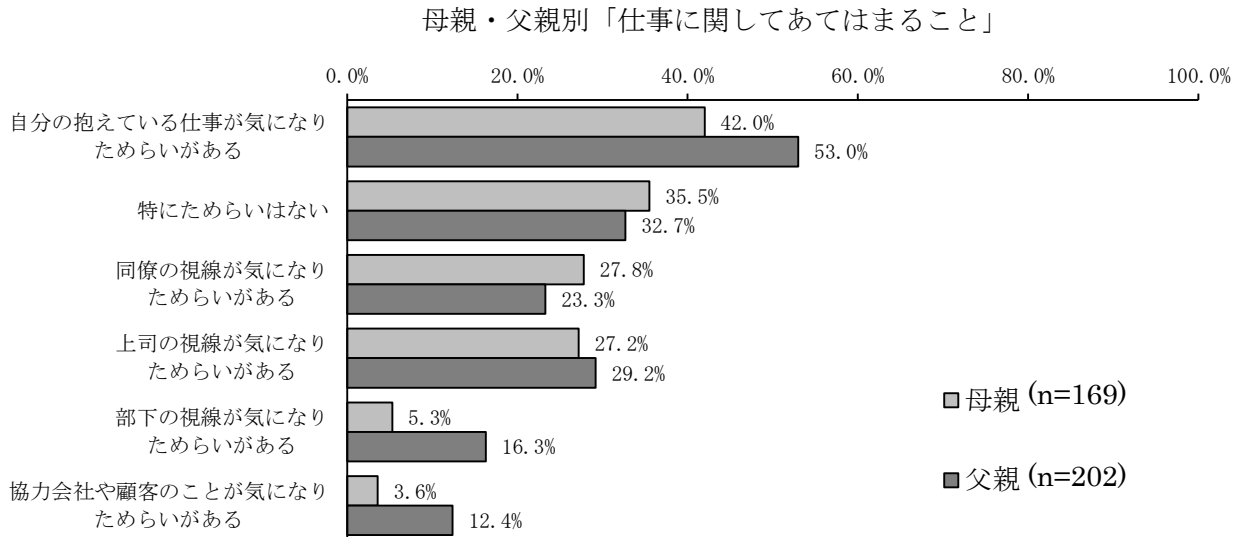
(2) 母親と父親の間にある就労環境の違い

就労環境について母親と父親の間に違いがあるかどうかを見てみると、いずれも「残業などで帰りが遅くなることもある」との回答が最も高いが、母親の場合は、「仕事の子育てに影響することはない」との回答が2番目に多くなっている。父親については、「仕事で子どもの行事に参加できないことが多い」との回答割合が2番目に高くなっていることがわかる。



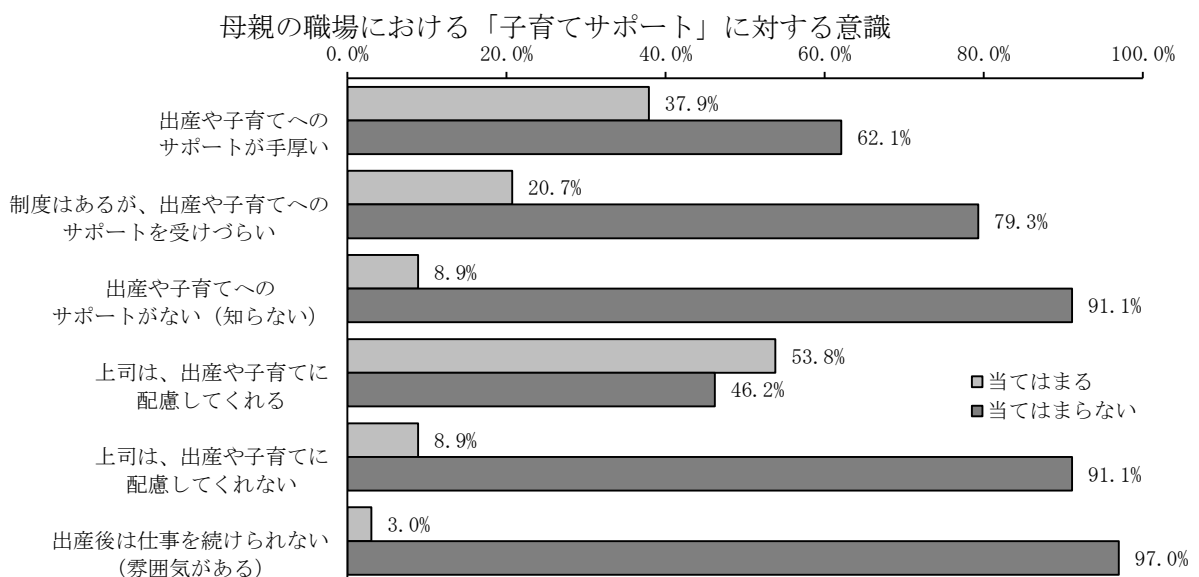
(3) 母親と父親の間にある「子育てで仕事を休むこと」への意識の違い

「子育てで仕事を休むこと」への意識について母親と父親の間に違いがあるかどうかを見てみると、いずれも「自分の仕事が気になる」との回答割合が最も高い。意外なのが、「特にためらいはない」との回答がいずれも2番目に多いことであるが、これは当該調査への回答世帯の世帯収入が比較的高いことから、就労環境が安定している世帯の回答を表しているものと推測される。母親と父親の違いを見ると、母親の場合は「同僚の視線が気になる」が3番目に多いのに対して、父親の場合は「上司の視線が気になる」が3番目に多くなっていることがわかった。



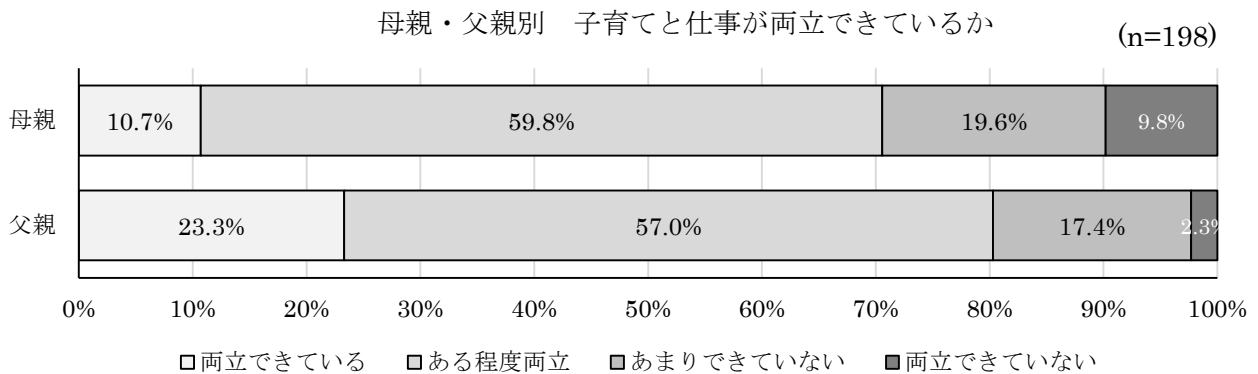
(4) 母親の就労環境による子育てへのサポートに関する意識

職場の子育てサポートに対する母親の意識を見ると、「上司は出産や子育てに配慮してくれる」だけ過半数を超えており、その逆質問である「上司は出産や子育てに配慮してくれない」に当てはまるとの回答も1割程度にとどまっている。なお、当該調査の回答者は世帯収入等が安定した方の回答が多いと思われるが、それでも「出産や子育てへのサポートが手厚い」との回答は40%を下回っており、職場における出産や子育てへのサポートの不足が窺われる。(n=169)



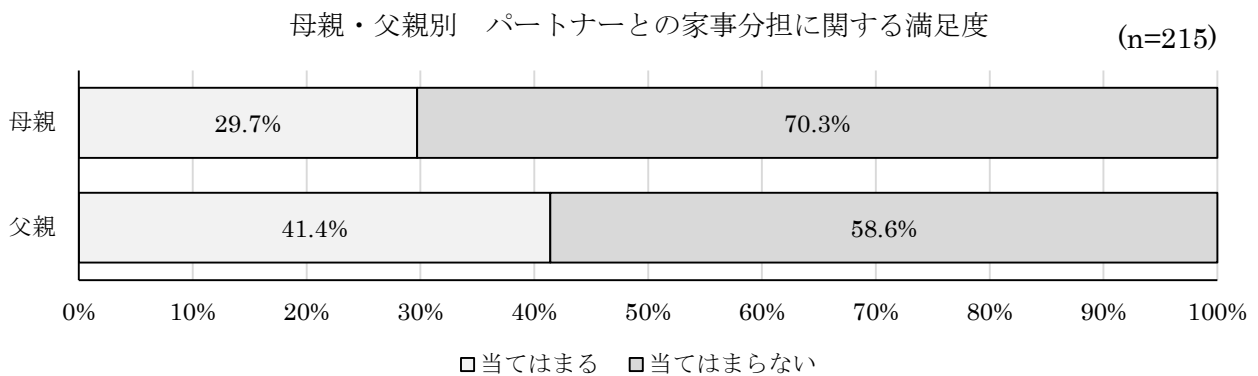
(5) 子育て（家事以外）と仕事は両立できているか

家事以外の子育てと仕事の両立ができているかという質問に対して、母親と父親での違いを見てみると、次のとおり、父親の方が両立できていると思っている割合が高いことが分かる。



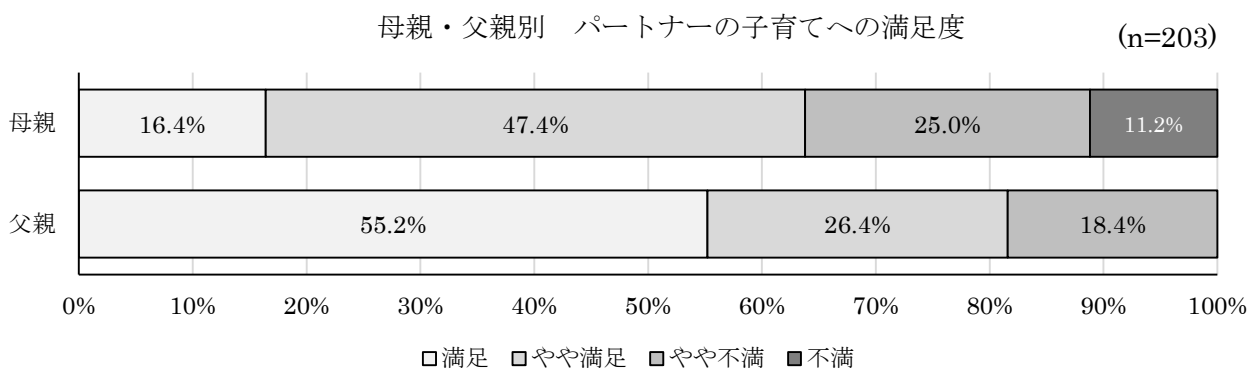
(6) 配偶者（パートナー）との家事の分担への満足度

配偶者（パートナー）の子育てに満足しているかという質問に対して、当てはまると回答した割合は、父親の方が母親よりも10ポイント以上高く、母親で当てはまると回答した割合は30%を下回っている。



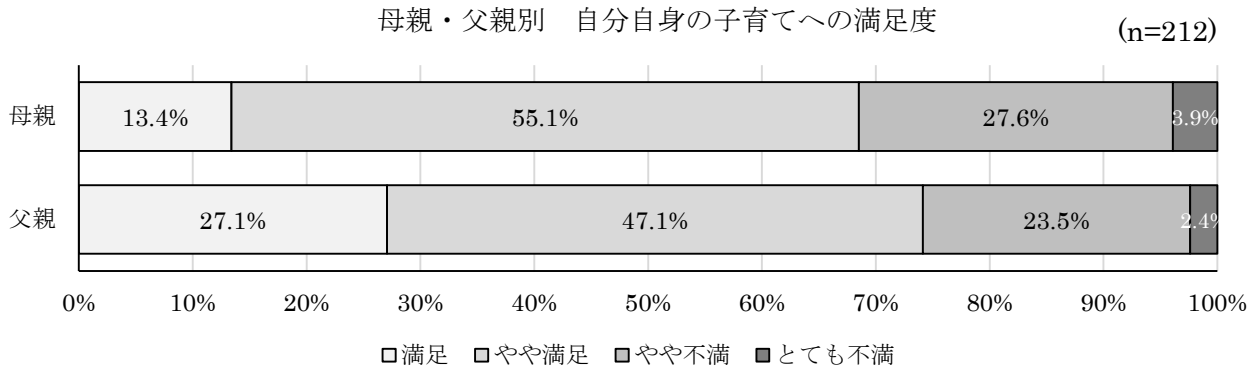
(7) 配偶者（パートナー）の子育てへの満足度

配偶者（パートナー）の子育てに満足しているかという質問に対して、母親と父親での違いを見てみると、次のとおり、父親は母親の子育てに対して非常に満足しているが、母親は父親の子育てにはそれほど満足しておらず、不満に思っている割合も30%以上あることがわかった。



(8) 自分自身の子育てへの満足度

自分自身の子育てに満足しているかという質問に対して、母親と父親での違いを見てみると、次のとおり、両親ともに自分自身の子育てに対して比較的満足している様子は窺えるが、母親と比べると父親の方がその割合は高いことがわかった。



3 集計結果の個別分析

(1) 集計結果の個別分析のまとめ

就労環境調査については、子育て世帯の就労環境が子育てにどのように影響を与えているか、特に、父親と母親の就労環境の差が与える影響の差などについて検証を試みるものである。

まず、母親が仕事をしているかどうかという点について、子どもの数が影響をしているかどうかを見たところ、「子どもが1人」の場合は73.4%が仕事をしているのに対して、「子どもが2人」以上の場合は80%を超えており、子育ての経験とともに定期的な仕事についている割合が高くなっていることがわかる。

また、母親と父親の就労環境の違い（就労環境に対する意識の違い）を見ると、「仕事の子育てに影響することはない」との回答は、母親が父親より10ポイント以上高く、「仕事で子どもの行事に参加できないことが多い」との回答は、母親が父親より15ポイント以上低い。

一方、母親と父親の就労環境に対する意識として、子育てで仕事を休むことをどのようにとらえているかを見ると、「自分の仕事が気になる」「特にためらいはない」が母親・父親ともに高い割合となっており、周りへの意識よりも自分自身への意識の方が強いように感じられる。

仕事と子育ての両立や家事の分担に関する意識を見ると、父親の方が母親よりも自分自身の満足度は高いことがわかった。また、配偶者（パートナー）への満足度としても父親の方が高いことがわかった。

調査結果については以上のとおりであるが、今回の調査については世帯収入の多い世帯の回答が多いことから、就労環境としても比較的安定した世帯の回答が多いものと思われる。そういう意味では、もう少し回答母数を増やし、多様な世帯の環境を把握することで佐世保市の全体像が見えてくるものと考えている。